

ガバナー 月信



奉仕しよう みんなの
人生を豊かにするために

Governor's Monthly Letter

Rotary International District 2630
2021-22

2022 Jun.

6

Vol.12

国際ロータリー第2630地区 2021-22年度 ガバナー 浦田 幸一



Photo Nakagita Yosie

Contents

- ガバナーメッセージ..... P2
- 2021-22年度 クラブ会長挨拶「1年を振り返って」..... P3
- 2021-22年度 ガバナー補佐挨拶「1年を振り返って」..... P15
- 2021-22年度 委員会委員長挨拶「1年を振り返って」..... P18
- 4月度会員数報告..... P24
- 会員動静報告..... P25
- ガバナーコラム..... P26
「1年を振り返って」 玉木地区代表幹事
各事務所の案内



第2630地区の
HPはスマート
フォンでもご覧
いただけます



つねに超我の奉仕を胸に

2021-22年度 RI第2630地区ガバナー

浦田 幸一

<ロータリーの平和構築と紛争予防>

本当に我々ロータリーに出来るのか！といった我々には何が出来るのか、何をしたら良いのか。

ロシアが勝手にウクライナを侵略して大勢の人を殺害し、住居や施設を破壊し、傍若無人のかぎりを尽くす。言うことを聞け！反抗するな！国土の東側をよこせ！核兵器の投入もあるぞ！プーチンは核で脅しをかけてくる。なんとも恐ろしい！

アメリカとNATO諸国はウクライナへ最新の武器を供与する。ウクライナは国土防衛に徹した戦いだ。ロシアが戦争を止めないかぎり戦い続けなければならない。ロシア・プーチンはウクライナを無限地獄に引きずり込んだ。今は義憤で満ち溢れているが、戦いが長引けば国民とその兵士たちの心は疲弊する。そんな中で我々が出来ることは、彼らへの心の消耗を抑えるための支援をすることしかない。傷ついた人達に寄り添い生き抜けるための活動をする。自分の事など、二の次にして相手を思い動く。「超我の奉仕」しかロータリーにはない。そう考える。

RIシェカール・メータ会長は、「もっと行動し、もっと成長を」とそしてアインシュタインの言葉を用いられ「誰かのために生きてこそ人生最高の生き方である」と述べられた。「めぐりゆく命の中で、手を心を魂を差し伸べるなら魔法が起こり、歯車が回り出す」とも言われた。いま一年経って何となく分かる思いである。

3月はじめ 愛知第2760地区の福田哲三氏（名古屋和合RC）からウクライナへの支援資金の依頼があった。一昨年の愛知、岐阜、三重コロナ対策フェースシールド医療機関への寄付の仕掛人である。支援金300万円を至急ウクライナへ送ろうとしたが、紛争地域への送金であ

り、金融機関からウクライナへの着金につき懸念が伝えられたため、敢えなく取りやめた。

ジリジリとした気持ちでいたら、5日目にRIからウクライナのための災害救済基金が開設したとの一報を頂き、すぐに堀部R財団委員長の確認を得てDDF（地区活動資金）10万ドル（1,200万円）を拠出することにした。また地区内73クラブへも支援金へのご協力をお願いをさせて頂いたところ、たくさんのご協力、おこころを頂き、940万円も基金へ送ることができた。本当に地区内各クラブ会長をはじめ、会員の皆様には心から御礼を申し上げる。お陰さまで国内最速、最高額の拠出だった。他の地区も触発されたようである。

4月30日までにロータリー災害救援基金に世界中から寄せられた寄付は1,440万ドル（日本は334万ドル）に上り、ウクライナ難民の人道的救援活動に優先して活用され、水や食糧、シェルター、医療物資、衣服といった必需品にこの資金が活用されている。現在までに、この戦争による被災者支援のために、79件の災害救援補助金（総額220万ドル）が授与されている。

これから当地区ガバナーとして、ウクライナ2232地区ガバナー ヴォロジミル・ボンダレンコ氏と愛知2760地区・杵名ガバナーとZoom会談（福田氏、堀部R財団委員長にお世話願って）をし、ウクライナ、キーウに不足している消防車車両を贈呈納車する段取りである。

一年間、私の粗雑な月信を読んで頂いたことに心から感謝し“ありがとうございました”と申し上げる。

次年度高橋ガバナーの健闘を祈る。頑張ってもらいたい。

私のわがままにお付き合い願った関係各位皆さんにも“ありがとう”

1年を振り返って



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために



岐阜西ロータリークラブの会長を振り返って

岐阜西ロータリークラブ
会長 古田 聡

この原稿を書いている時点では、もうあと2ヶ月あまりで会長の任期が満了となります。早いもので会長の依頼を受けたのが2年半前、まだ新型コロナなどという物は無く、来たる会長就任に向けて不安ばかりの毎日でした。程なくしてコロナ禍となり、ロータリー活動どころか普段の生活も大きく変化してしまいました。自分の任期の頃には収まっているだろうという期待も見事に打ち砕かれ、ここ数年では1番制限を受けてしまいました。通常例会は長期休会、地区大会などの行事も中止、当クラブ活動の柱である海外の姉妹クラブとの交流も全くなされることなく、ロータリー活動の意義も理解できないまま任期を終えようとしています。ですがこの経験は必ず生きてくると思うので、これから先、長いロータリー活動の糧にしていきたいと思います。



1年を振り返って

岐阜北ロータリークラブ
会長 辻 博

今期1年間は、新型コロナウイルスの感染防止対策のため、まともなロータリー活動はほとんど出来ませんでした。そんな中でも、今年で30周年を迎えた「岐阜北ロータリーカップバレーボール大会」が無事開催出来たことと、そして、39名でスタートした会員数が今期3名の新入会員を迎え会員数42名になり、創立40周年で会員40名という3年前に掲げた目標を達成できたことはうれしく思います。残りわずかとなりましたが、今期の一番大きな行事である「40周年記念事業」を6月に開催する予定なので、無事終わることに向けて全力で頑張っていきたいと思います。また、ロータリーはやはり、例会あつてのロータリーだという事を、あらためてこの1年間感じました。来期は、例会が毎回しっかりと開催できることを願って、今年1年の締めくくりとさせていただきます。



1年の思い出

岐阜ロータリークラブ
会長 石井 亮一

新型コロナ2年目を迎えた令和3年7月、緊急事態宣言、まん延防止等対策が今年も発令しないと断言できません。そのため、宣言等が発令した場合どうするべきか、事前に理事会の合意をすべきであろうと判断し、1つのより所を作りました。緊急事態の場合は休会、まん延防止の場合は、例会ではなく出席義務のない臨時FM（情報集会）の開催としました。8月のまん延期間は、緊急事態宣言と重なり例会は中止となりました。そして、1月21日からまん延防止期間が最初の臨時FMの開催となりました。セレモニー・卓話を終了し、別室での昼食、この光景が1番の印象深い思い出となっています。感染対策で、180cmテーブルに1名、同じ方向を向いて、黙食、給仕の音とピアノの生演奏だけが聞こえています。都合8回の臨時FMの開催期間の光景が1番の思い出です。



1年を振り返って

岐阜長良川ロータリークラブ
会長 村瀬 光正

本年度のRIのテーマは、「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」、そして、第2630地区の地区方針は、「つねに超我の奉仕を胸に」です。このテーマと地区方針のもと新しい年度が始まりましたが、新型コロナウイルス感染症は、依然感染収束が読めず、RI第2630地区岐阜AグループのIM・ガバナー公式訪問合同例会は、8月が10月に延期変更され、出席者は、各クラブ 会長・幹事・社会奉仕委員長・職業奉仕委員長の4名の出席となり、一般メンバーは、オンライン配信となりました。また、3月予定の地区大会は中止となりました。今期岐阜長良川RCは、第57期を迎えましたが、前年度と同じく新型コロナウイルス感染症のため、会員の安全・安心を考えた例会運営となり、会員相互の親睦をはかる事が出来る夜間例会も、日程変更、中止となりました。そんな中でも、ご家族の皆様との交流の場となる忘れ家族会(12月18日)は、会員・ご夫人・子供達が多数参加して頂き、楽しいひと時を過ごす事が出来ました。ありがとうございました。また、本年度の対外事業として、4月には石巻南RC創立30周年記念式典・祝賀会が開催され、会員の皆様のご協力のもと、会員14名、ご夫人2名にて参加し、交友を深める事が出来ました。ただ残念な事は、会員維持増強は、1人の増強も出ず、1人の退会者を出した事は残念でありません。この1年を終えるにあたり、理事・役員の方始め会員の皆様にはご心配、ご迷惑をお掛けしました事多々あったと思いますが、皆様のご支援、ご協力を賜り、無事この大役が終わる事が出来ました。感謝申し上げます。岐阜長良川RCの今後の益々の発展を祈念して退任の挨拶とさせていただきます。



1年を振り返って

岐阜中ロータリークラブ
会長 故金 正司

クラブメンバーの方々、理事会、各委員会の皆様には「ロータリーを学ぶ」「会員増強」の二大テーマをもとにクラブ活性化に御活躍頂きましたこと感謝申し上げます。ロータリーを学ぶではロータリーの教本の解説、月信やロータリーの友のニュース提供など新しい活路を広げることが出来ました。浦田ガバナーの「超我の奉仕を心に」はクラブ内で根付き、私も奉仕と経営の大黒柱として発展させて頂きました。



1年を振り返って

岐阜南ロータリークラブ
会長 玉木 吉郎

コロナ禍は休会を強要し、会員の親睦を深めるような会合も慎重にならざるを得ない状態が続きました。岐阜南ロータリークラブの信条は「みんな仲良く」です。クラブの慣習と知識、会員の顔を覚え、人を知る時間が新会員には少な過ぎました。クラブターゲットを「家族のように！」としたのは、互いの喜び、悩みを分かち合い相談できる人が出来たらいいな!と考えたからです。企業の運営に携わり、苦勞に出会ったとき親の様にアドバイスしてくれる人、喜んでくださる方があれば、意欲と元気が仕事にも反映していくと考えました。若い会員にとっての道標となる先輩会員を見つけた時喜びとなり、次の後輩会員を育てる。そんな伝統あるクラブの一員になれたらと思ってきました。世界のロータリーが、1つの家族のようになってこそ超我の奉仕が続くものと考えます。



1年を振り返って

岐阜東南ロータリークラブ
会長 清水 基之

今年度も昨年に続き新型コロナウイルス感染予防のため、例会やクラブ活動や奉仕活動など思うように活動ができなかった一年でした。会員同士の交流もほとんど行われず会員間の結束が薄れた気がします。これに対し思うような対応ができなかったことを反省しております。

多くの例会が中止になる中、感染対策を考えここ2年行うことができなかった家族例会のクリスマス例会が開催できたのは会員交流において大きな成果が出たと感じております。

また、対外的事業として木曽川堤防清掃活動や笠松町児童館竣工における記念植樹もさせて頂くことができました。

今後はコロナ禍においてもできる事業を考え、奉仕活動を進めていく必要があると感じました。

次期年度は引き続き感染対策をしながらも例会が通常通り行えることを期待したいです。



1年を振り返って

岐阜エトスロータリークラブ
会長 臼井 伽織

今期クラブに掲げたテーマは「積極的に行動しよう」でした。ロータリアンでいる意味が見出せないという会員の声を聞いて、自ら行動することで見つけられると考えたからです。私も一緒に行動しました。結果、毎年恒例の行事についても内容の充実が図れたと思います。ロータリアンでいる意味が見出せたかどうかはわかりませんが、クラブの一員であるという意識は生まれたのではないかと感じています。ですが、昨年同様コロナの影響はクラブ活動に及びました。例会の回数が減り、出席率も低下していくようになりました。が、そのような状況でも、意欲的に動いて頂ける会員も多数いました。この雰囲気をもっと向上させるためには、やはり画面越しではなく、会場で会員同士が顔を合わせての例会がとても大切なのだと感じます。



1年を振り返って

岐阜東ロータリークラブ
会長 安田 達雄

当クラブ50周年記念事業の総括から「岐阜の魅力生かし方活動」を始動し、2年目になります。今年度は岐阜の食をテーマに活動してまいりました。

岐阜は、海がない県ですが、非常に素晴らしい土地の高低差があります。海拔0m以下～3,000m以上の高低があり、その高低の温度差から岐阜独自の伝統野菜やいろいろな特色がある野菜も採れます。

また、大会に出品された最飛びの飛騨牛や長良川の鮎などを会員の皆様に岐阜の老舗料亭「ぎふ水琴亭」で披露して、召し上がってもらい、会員の皆様に岐阜食の魅力を再発見してもらいました。

また、去年寄付した組み立て式舞台を利用して、岐阜市在住の出雲草 松本あり様に語り舞を披露して頂き、会員と家族皆様に楽しんでもらいました。

改めて、会員の皆様に感謝の1年間でありました。有難う御座いました。



1年を振り返って

岐阜加納ロータリークラブ
会長 豊田 真弘

本年度は下記の4つのテーマを基本方針として1年間のクラブ運営を致しました。

- ①ウィズコロナにおけるロータリークラブ(デジタル社会への対応)
- ②職業奉仕・職業倫理を高める(例会卓話の充実)
- ③ロータリー財団補助金を活用した奉仕プロジェクトの計画・実施
- ④加納の歴史・文化継承への継続的な取り組み

コロナ感染防止のためのまん延防止等重点措置の適用等により休会が余儀なくされましたが、創意工夫をして大半の奉仕活動、親睦活動を会員皆様のご協力を得て実施することが出来ました。休会によりリアルで出来なかったプログラムについてはオンライン利用による実施及びビデオ録画によりホームページで発信を行いました。残念ながらコロナ禍により旅行など実施できなかったプログラムもありました。1年間、皆様のご協力に心より感謝いたします。



1年を振り返って

岐阜城ロータリークラブ
会長 正村 一人

「職業奉仕をすべての中心に」をクラブ方針として、コロナ禍でも通常例会をできるだけ多く開いてきました。夜間例会や中止となったプログラムも通常例会に代えて実施しました。緊急事態宣言下ではオンライン例会で対応しました。しかしクラブの社会奉仕事業の中止や地区主催の行事が中止された影響で例会でのプログラムが度々空白になりました。そんな時、期首から予定していた「時間が許せば5分ほどの職業卓話」をすべての会員にして頂き、かえってプログラムに迫られることなく会員個々の理解や親密度を深めることができました。

外に出る機会が少ない中でコロナの合間を縫って実施した遠征例会「徳山ダム、藤橋城プラネタリウム見学」、岐阜東RCとの「新春合同例会」が数少ない楽しい思い出です。

1年間ありがとうございました。



1年を振り返って

大垣ロータリークラブ
会長 里村 大像

昨年70周年の節目を迎え、新たな10年に向けてのスタートとなった今期ですが、コロナ禍にあって如何にロータリー活動を前進させていくかが課題の一年と成りました。

国の対策が発令中以外は例会開催としましたが、残念ながら16回の休会を余儀なくされました。委員会事業や例会卓話等の準備をして頂きながら、開催出来なかった事については大変申し訳なく思っています。

そんな中 With コロナでの試みとして酒席を伴わない IDM や、ユーチューブでビデオメッセージをご覧頂きながらの各家庭でのクリスマス会又今期のテーマの1つでもあるメンバー同士の職業をよりよく知ろうという企画の友愛例会等、新たな取り組みにトライする事が出来ました。

コロナ禍で開催数が減った分、1つの例会の大切さをより感じる1年と成りました。

クラブメンバーのご協力のお蔭でそういった気持ちを醸成出来た事を改めて感謝申し上げます。



1年を振り返って

本巣ロータリークラブ
会長 廣瀬 康顕

この1年を振り返らせて頂くと、まず、やはり新型コロナウイルス感染症の影響で様々な予定の中止・延期等があり、思う様にクラブ運営が進めなかった事が挙げられます。

正直申し上げて、私の期ではコロナウイルスは取まってきているであろうと甘く考えていた部分があり、予定の修正に振り回された感が多分にあります。ですが、そんな中でも私の期の独自の活動として追悼法要例会の開催や、卓話でIT講習を行う事ができ、また恒例の交通安全啓発活動も行うことができました。また、忘年例会や新年会、家族旅行例会などは運良く開催する事ができ、最低限ではありますが、何とか乗り切る事が出来ました。

これも偏に会員の皆様のご助力・ご協力があった事です。特に理事の皆様には緊急招集が多々にも関わらず、この様な事態の時こそ団結すべき時とお声を沢山頂きました。感謝の念に耐えられません。この機会に皆様のロータリアンとしての友情を再認識させて頂く一年でありました。



1年を振り返って

不破ロータリークラブ
会長 吉田 芳明

「世の中、良い時ばかりではありません。困難な時こそ互いに支え合い、いたわり合い、感謝し、絆をつなぐ。相手を思いやる事こそが奉仕の精神だと思います。」

最初のご挨拶をさせて頂いたのがつい先日の様です。本年度もコロナ禍の中でのクラブ活動となり、思うような事業展開が出来なかったのですが、メイン事業の一つである「中学生による英語スピーチコンテスト」を、コロナ対応を十分にを行った上でのオンラインハイブリット方式にて開催することが出来ました。又、「加来耕三氏歴史講演会」は、残念ながら中止となりましたが、同時に進めておりましたロータリー財団地区補助金を受けての社会科副読本「神田孝平を知っていますか？」の出版事業につきましては、無事に1,000部作成し、小中学校等に寄贈することが出来ました。

改めてクラブ会員の皆様には多大なるご協力、ご支援、ご指導に感謝申し上げます。



1年を振り返って

大垣西ロータリークラブ
会長 曾根 孝仁

今年こそはロータリーライフを楽しむぞとの意気込みで始まった年度でしたが、オリンピック後と年始の2度にわたる再流行により、例会は予定43回中の29回しか開催できないこととなります。PETSにて会長の時間にはロータリーの根幹である職業奉仕の話を多く組入れて下さいとの指示をうけましたが、できたのは結局2回だけでした。しかしながら自分的にはビジネス学としての「Service above self」と「Service, not self」の対比からロータリーの社会奉仕の理念に得心できた貴重な1年となりました。なにも歯が浮くような高尚なことを言っているのではなく、当たり前のことを多少勿体ぶって表現しているに過ぎないことに気付かされました。と同時にロータリークラブが人間らしく思え、漠然と抱えてきた嫌悪感が消えていきました。次年度こそはポストコロナが実現することを祈っています。



1年を振り返って

羽島ロータリークラブ
会長 堀 雅利

「研鑽しよう超我の奉仕 涵養しようロータリー」を方針として活動して参りました。前2期はコロナ禍によって例会や多くの行事を中止せざるを得なくなりました。今期こそはロータリーらしい活動をとバトンを受け継ぎました。いくばくかの行事は中止となりましたが、リモートを活用したバーチャル例会や理事役員会を実施する等、会員の職業と同様にロータリー活動をも止めることなく運営が出来るようになりました。おかげで超我の奉仕を研鑽し続ける事が出来、また退会者0の防止にも寄与出来たと感じます。また、夜間例会の導入等により新会員も10名増員となりました。RI会長の「もっと行動し もっと成長する」という信念に基づいて全会員が協力して行動出来た素晴らしい1年だと感じています。来期の更なる飛躍が楽しみでなりません。



1年を振り返って

大垣中ロータリークラブ
会長 豊田 典義

大垣中RCは新会員を15名迎え、IDMや新会員のスピーチ例会や現会員との懇親を深める夜間例会など盛りだくさんで計画しておりました。しかしスタートしてたちまち緊急事態宣言の発令、続いてまん延防止の発出。コロナも3年目でここまで影響がでるとは想定外でした。

ウェブ参加も認めるハイブリット例会、ズームによる理事会、例会では弁持ち帰り等々いろいろ対応して参りました。今思うことは普段の例会が開催出来ていた日々が如何に幸せだったかということです。

そんな1年でも合間を縫って、クリスマス会、そして日帰り家族例会が逆に通常以上に盛り上がった行事となったことが一番の思い出となりました。

大垣中RCの会員の皆さん1年間ご協力ありがとうございました。



1年を振り返って

大垣センチュリーロータリークラブ
会長 吉田真砂子

昨年7月に会長という大役を仰せつかり、重責にとまどいながらも「超我の奉仕」を胸に、皆が豊かになるための奉仕の活動を目標にしてきました。まずは浦田ガバナー、後藤ガバナー補佐、地区役員の皆様のご尽力に感謝申し上げます。コロナ禍で活動が制限され、もどかしい思いが続きましたが、想像以上に会員の皆様のお声がけを頂き、ここまで来られたと実感しています。

今年度はオリンピック・パラリンピックがあり、数々の災害にも見舞われました。特にウクライナへの義援金は2630地区はいち早く行動し、予定された金額を上回る募金をすることができました。時代に合わせた活動を学ぶ機会が多かったと感じます。次年度はさらに魅力あるクラブへと進化していくと確信しております。

改めてここまで支えて頂いた、幹事、役員、理事メンバー、そして会員の皆様に心より感謝申し上げます。



2021-22年度 1年を振り返って

岐阜サンリバーロータリークラブ
会長 竹内 正明

2回目の会長として1年を無事終えることができるのも、幹事、事務局や会員の皆様のご協力のおかげだと、改めて感謝したいと思います。

今年度は我RCとして、IMホストクラブとしての準備、鹿児島東RC、台湾城中RCとの姉妹盟約延長、調印の為、鹿児島、台湾に向いて長年交流してきた各会員の皆様と、更により良い交流を深める予定でしたが、新型コロナの影響で全て中止となりました。終息の後、早期に訪問し親交を深めたいと思っています。

コロナ禍の中、緊急事態宣言解除の日程に添い、例会を行いました。その中でも2名の会員増強をすることができました。まだまだ会員増強は必要ですので、次年度も会員力を合わせ、親睦と、会員増強に努めていってほしいと思います。



「東日本大震災の 10年後視察・研修」事業

中津川ロータリークラブ
会長 齊藤 隆

当クラブは10年前の2012年に5歳から19歳の子供達29名と震災の復興もまだ手付かずの石巻を訪れ、実際に現地を視察し、施設を慰問する事業を行いました。そして10年後の今年4月29日～30日、高校生～社会人となった当時の子供達と再び石巻を訪れ「変わった物・変わらない物」をテーマに視察・研修する事業を行いました。特に復興の支援を続けている現地の方々との研修では、震災の怖さや悲惨さだけでなく、家族を守る為の準備、また震災直後から発生する被災者への支援や制度の改善点等を学び、成長した子供達に新たな体験として災害支援の在り方を感じて頂きました。また今後のロータリーの災害支援の在り方も考えさせられる事業でした。コロナ禍に振り回された一年でしたが、この様な事業ができた事に対しメンバー及び関係者に深くお礼申し上げます。



1年を振り返って

岐阜淡墨ロータリークラブ
会長 豊田 鐘三

新型コロナの感染者数が一桁の状況で最初の例会を迎え、今年度は、順調なスタートと思われましたが、その後、9月、2月、3月と、まん延防止等重点措置が何度も発令され、1年を通して13回の例会の中止や変更があり、奉仕先の団体にもご迷惑をお掛けする結果となりました。

今年度は創立30周年という節目の年でもありましたので、創立30周年の記念式典を5月に開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染の収束が見えない状況での開催について、記念事業実行委員会及び会員との協議の末、会員と会員の御夫人だけの規模を縮小した例会に急きょ変更して開催することになりました。

計画していたプログラムが思うように達成できなかった心残りある1年となりましたが、次年度こそは、通常通りのロータリー活動が行えることを期待しております。



1年を振り返って

多治見ロータリークラブ
会長 梅田 照夫

今年こそはコロナの影響なく進められることを願いスタートした今期でしたが、残念ながら、例会の休会や事業計画の延期、中止など思うようなクラブ運営が進められませんでした。

しかしそんな中、地区補助金での県病院へのマスクの提供や駅北の地元の高校生との合同清掃、小、中学生対象の多治見ふるさと仕事塾、陶技学園のクリスマス訪問などの奉仕活動が各委員会の協力で実施できたこと、またガバナー公式訪問例会も日時の変更があったものの実施できたことは大変うれしく思います。

例会は4か月ほどの休会がありましたが、再開できた時、改めて会員同士がリアルに会話ができることの大切さを感じることができた気がします。

この1年間力不足の私を支えて頂いたクラブ会員の皆様には心より感謝申し上げます。

深謝！



1年を振り返って

瑞浪ロータリークラブ
会長 小栗 謙次

この1年何をやったのかと聞かれたらどう答えればよいのか、計画したイベントに向け準備をし、その日が目前に迫る中での中止の判断、会員に対しての緊急連絡。振り返れば、登山を目指す登山家が山頂を目前に悪天候の為、止むなく下山を余儀なくされるという、そんな決断の連続であったような気がいたします。

さて、今年度東濃グループガバナー補佐輩出クラブとして、3RC合同例会・IMを半年遅れではありましたが、4月15日に浦田ガバナーをお迎えして開催できたことは喜ばしいことであり、やっと1つ成し得たという安堵の気持ちでいっぱいです。

結びにコロナ第6波が峠を越え、会員の表情にも明るさが戻り始めた頃、ロシアによるウクライナ侵略テロ、人間の愚かさを痛感するとともに、どうか1日でも早く戦争が終わること、これ以上犠牲者が増えないことを、心より渴望いたします。



恵那 RC60 周年

恵那ロータリークラブ
会長 脇田 誠

1961年創立以来、本年で60周年を迎えることができました。

予定者の段階より式典・祝賀会・記念事業・記念講演・記念誌と5つの委員会を立ち上げ準備を進めてまいりましたが、コロナ禍の中、当初予定しておりました2021年11月開催を延期、2022年2月も再延期と、中止止む無しの所まで来ていましたが、3月、恵那市内中学生を対象に、川廷昌弘氏をお招きしての「未来を創る道具私たちのSDGs」記念講演会開催。4月、浦田ガバナーを始めとする地区役員の皆様、東濃グループ山田AG、7クラブ会長幹事様にお越し頂いての、記念式典・祝賀会開催。

記念事業も各中学校へのSDGs書籍贈呈、恵那市子ども版画コンクールへの助成など開催し、記念誌発行も年度内には配布予定となりました。

1年間ありがとうございました。



1年を振り返って ～ありがとう～

土岐ロータリークラブ
会長 岡部 高志

本年度のテーマ「それぞれの人生に、ロータリーという名のスパイスを・・・」たくさん振りかけられるよう、会長として精一杯活動させて頂きましたが、どうやら私自身のほうが「豊かな人生」を送る為のスパイスを皆様から振りかけて頂いたような気がします。コロナ禍の中で思うような事業や例会が展開できない歯がゆさもありましたが、反面新たな社会奉仕事業、例会運営の在り方などクラブの未来に向けた方向性について、色々と考えさせられる時間もあり、私の人生においても大変味わい深い1年となりました。これからも様々な場面で出会ったロータリアンとの不思議な縁＝つながりを大切にしながら、更に勉強をしてクラブ発展の為に尽力していきたいと思えます。

最後に今、痛ましいニュースが流れてきます。一刻も早い停戦と久遠の平和を祈って・・・1年間ありがとうございました。



1年を振り返って

多治見西ロータリークラブ
会長 山田 正史

昨年の7月に会長に就任して早くも10ヶ月経ってしまい振り返る毎日です。

コロナで例会も休会となり、短縮例会となりメンバーとの交流もままならない日々が続き実行に移す奉仕活動も会合が制限されて結論が出せず、断念せざるを得ないこととなりました。

ただ今回は米山奨学生の受け入れがあり、我がクラブも明るい兆しが見えてきましたがやはり上記のような状況で奨学生の例会出席も制限されてしまい残念でした。

しかし多治見には虎渓山永保寺がありその中に国宝が2棟建立されておりましてここを見学出来ましたことは、大変喜んでくれました。

それと姉妹提携しております台湾のロータリークラブと48年間続いている書画交換展示会が今回も開催出来たことです。私の今年のテーマは、“ロータリーに情熱を・・・”ですが、コロナ禍の中メンバーと共に行事と例会を英知と勇気と情熱を持って成し遂げることが出来ましたことは感謝です。



1年を振り返って

中津川センターロータリークラブ
会長 赤座 薫

自身の生業は病院介護施設経営、また地域医師会副会長という立場です。コロナ禍にクラブの会長を全うすることはできるのか？昨年当初よりいっそ会長を辞退すべきかと悩みました。会長を受諾した際、新型コロナウイルス感染症は有りませんでした。社会経済活動とは立場を異にする医療介護従事者がこの時期にロータリークラブの会長を務めることは、会員に迷惑をかける以外なものでもないと。しかし、そんなわけにもいかず7月を迎えました。不易流行をテーマとし、コロナ禍での例会の持続を模索しました。①非常事態宣言中休会しても会報は発行する、②蔓延期間は自身が医療従事者であればこそ安全安心に例会を開催する、この2点を不易流行と解釈しました。結果、6回休会こそすれ何とか1年を乗り切れそうなのは、ひとえに会員皆様のご理解、ご協力の賜物と感謝する次第です。



1年を振り返って

多治見リバーサイドロータリークラブ
会長 山本 和彦

当クラブ創立30周年を記念する大事な1年ではあったものの、8月末から9月一杯の緊急事態宣言にて例会の休止、また会場を転々と移動を余儀なくされること多し。予定していた周年事業も予定通り出来ず忸怩たる思いで過ごす。例会での卓話を依頼していた方の日程変更、振替えなどに気を揉む。年末にはガバナー輩出要請として地区より依頼あり、青天の霹靂とはこの事を言うのであろう。クラブ内での調整、総会での決議にて引き受けを決定。自身も地区代表幹事としてその責を負うことになる。何かと思うような1年を過ごすことが出来なかったが、最終の5月の創立30周年記念式典は予定通り開催。元RI会長田中作次様を特別講師にご講演を頂き盛大の内にこの1年を締めくくることが出来た。



1年を振り返って

美濃ロータリークラブ
会長 土本 恭正

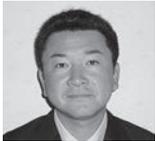
この1年間を振り返りコロナとの共生を探った1年間でありました。前年度はほとんどの事業が中止に追い込まれていましたが、今年度は例会こそ半分ほどしか開催されませんでした。インターシティミーティングも対面で開催し、中・東濃地区インターアクト協議会も対面で開催。東海北陸道グループのゴルフコンペも開催出来ました。また地区財団補助金事業も開催出来ました。特にインターアクト及びゴルフコンペは昨年度よりのびのびになっていた事業であり、今年度無事に開催出来たことは本当に良かったです。関係者皆さんの大変な努力のおかげであります。また次年度へ向けてウィズコロナの先例として参考になるようなことが出来たのではないのでしょうか。会長として決断、決断の連続の1年でしたがが無事終わったこと会員の皆様へ感謝申し上げます。



1年振り返って

各務原ロータリークラブ
会長 後藤 健介

コロナ禍が続く中、各務原ロータリークラブの記念すべき60周年の会長を拝命頂いた時には、危惧する思いでスタートした事を思い出します。そういった中でも、新メンバー2名増強してスタートできました。また主な事業としては、元オリンピック選手の栗原 恵 氏を招いてのバレーボール教室も開催し、60周年記念事業も無事行う事が出来ました。予想を上回る大変な1年間でありましたが、ロータリーの理念を大切に、奉仕活動を楽しむ事が出来ました。これも理事メンバー及び事務局そして、会員の皆さんのおかげで無事終了する事が出来た事に深く感謝します。ありがとうございました！！



1年を振り返って

郡上八幡ロータリークラブ
会長 和田 英人

コロナ禍の中でのスタートで、なかなか計画通り例会、活動を行えず会員の皆様には大変ご迷惑を掛けたことと思います。

その中で、当初計画していた最小限の活動は変更を重ねながらも進めることが出来たと思っております。

これも理事、役員をはじめ、各委員の皆様のご協力によるものと強く感じております。

ただ残念なことに、会員増強は出来ず減少になってしまいました。

今後の課題の1つにしていきたいと思っております。

この1年間は、自分にとって大変すばらしい経験をさせて頂きました。誠にありがとうございました。

今後はこの経験を活かし、ロータリーライフを楽しんでいこうと思っております。



会長となって思うこと

郡上長良川ロータリークラブ
会長 島崎 秀樹

二年前会長エレクトに指名された後、自分の期には何をしようかと思案し、クラブ目標を「王道」と決めました。しかし昨年7月、いざ就任してみるとコロナによる緊急事態宣言やまん延防止措置などによってすっかり行事等が骨抜きにされ、今までにはお客様も訪問しづらくなり、外来卓話による交流も無くなり、他クラブとの交流の場である地区大会も中止で思うように例会運営が出来ない1年でありました。また、会員増強について、積極的に動けなかったことが、心残りであります。それでも、東海北陸道グループのIMへの参加、加賀中央ロータリークラブとの姉妹締結40周年事業が行えたこと、また、まん延防止措置等が解除された後には、2年ぶりぐらいに会員参加の懇親会を桜の木の下で行えたことは嬉しい限りでした。



2021-22年度を振り返って

関ロータリークラブ
会長 加藤 照彦

創立55周年という節目の年に、会長という重責を仰せつかりましたことに心より感謝申し上げます。

コロナ禍の中、少しでも多くの会員に奉仕の実践・例会への出席をして頂けるよう年間計画を立てました。一時期例会がZoomになりましたが、全ての計画を実行する事が出来ました。55周年記念事業に関しては1年かけて会員全員が参加し3月12日に発表と式典を終えることが出来ました。会員の前向きな想いと行動力のお陰だと深く感謝申し上げます。

今、世界中がコロナ禍やロシア侵攻により大きな苦難に直面しております。しかし人類は過去に何度も数々の苦難を乗り越えてきました。今回も必ず乗り越えられます。今こそロータリアンとして自覚を持ち「超我の奉仕を胸に」実践していきたいと思っております。

会員の皆様、地域の皆様、1年間に難うございました。



1年を振り返って

関中央ロータリークラブ
会長 土屋 敏幸

新型コロナ、熱海の土石流、ロシアのウクライナ侵攻、福島県沖地震、知床観光船遭難等未曾有の天災人災がこの1年で起こった。通常の活動が制限される中、できる事からやっつけていこうと思っていたが、私一人では何もできず、会員の皆さんの知恵と行動力で何とかここまで繋いでこれたと思う。今後は前記の災害に苦しむ人々にどうやったら寄り添えるか、クラブ全員で考えて行動に移していかなければいけない。その為にも会員増強が大事になってくるのだが、なかなか思うようにはいかない。あきらめることなく常に声掛けをしていこうと思う。個人的には会長挨拶に苦勞した。人前で話すことが苦手だし、回数が多いので話題を探るのが大変だ。しかしこういう機会がなければ何も努力しないから、少しは成長できたかな。これを仕事にも生かそうと思う。



1年を振り返って

高山ロータリークラブ
会長 平瀬 市兵衛

一昨年からはじめたコロナ禍もワクチン効果で収束すると思われていたにも関わらず、今年度もコロナに翻弄される1年となりました。会長エレクト研修セミナー、地区研修・協議会もオンラインでの開催となり、不安のまま始まった新年度も、第5波、第6波によって例会の取消、行事等のスケジュール変更や中止を余儀なくされました。特に気を使っていたのは、コロナになってから入会したメンバーへのフォローです。マスク着用で仲間の顔も知らず、親睦を深める懇親会も開催できず、仲間を知る機会に恵まれません。そこで例会にゲストを呼ばない代わりに会員スピーチに切り替え、どんどんしゃべってもらいました。皆さん話し上手で、身の上話から仕事の話で場を盛り上げてくれました。ご支援頂きました会員の皆さんに感謝申し上げます。



1年を振り返って

下呂ロータリークラブ
会長 瀧 康洋

今年度の会長をお受けするに当たり、3年目になるコロナ禍でダメージを受けている観光業を何とかしなければ…という事に全力を尽くしている最中でしたので、会長の職を全う出来る自信がなくずいぶん悩みました。しかし、会員各位皆様、事務局様のご協力のおかげをもちまして、無事に任期を終えることが出来ました。有難うございました。

さて今年度も引き続き新型コロナウイルスの影響を受け、計画通りに事業は出来ませんでした。そのような状況下の中でも、ロータリー財団の地区補助金を活用した下呂特別支援学校への「なかよし広場」の寄贈事業、下呂市へ災害義援金寄付を行うことが出来ました。また益田清風高校模擬面接指導や桜の木の天狗巣病駆除作業、12ヵ年皆勤表彰も継承して行い次に繋げることが出来ました。

次年度はコロナ明けの新しい世の中で、下呂ロータリーの活動が更に広がっていきます事を祈念しつつ、引き続き皆様のご協力をお願い申し上げます。



1年を振り返って

高山西ロータリークラブ
会長 鴻野 幸泰

今年度は7月にスタートを切り、例会も7月8月予定どおり開く事が出来ました。しかし9月10月は、新型コロナの影響で休会となりました。蔓延防止が解除されてからは、休会の穴を埋めるべく11月12月は、8週連続例会を開催しました。又運よくクリスマス例会、新年家族例会も開催できました。

今年度クラブの目玉事業でした財団補助金活用の飛騨地区知的障がい者と保護者の方を対象にしたイベント「手に手をつなごうの会」については、本来作品展示、映画鑑賞、マジックショー、縁日などのイベントをクラブメンバーと保護者会の方と共に話し合いを重ねて10月に開催予定でしたが新型コロナの影響で2月に規模を縮小して作品展示のみでしたが2日間開催することができました。

1年間、会長を務めさせて頂いて、たいへん人生の良い経験と勉強ができたことを感謝いたします。ありがとうございました。



1年を振り返って

美濃加茂ロータリークラブ
会長 佐久間 良直

当クラブでは、緊急事態宣言下の夜例会とガバナー公式訪問合同例会の2回を休会としましたが、それ以外は、リモート例会や例会変更を行ってプログラム通りの例会を実施することができました。会員の皆様には、感染予防に留意し、積極的に例会に出席頂きましたことを、心より感謝いたします。



1年を振り返って

可児ロータリークラブ
会長 梅田 一人

可児ロータリークラブ第48代会長に就任させて頂き、早いもので1年近くが経ってしまい、すでに、次年度が動き出しています。

本年度当クラブは、「奉仕と親睦の両輪を回そう」をテーマに、クラブの活動方針を決め、活動して参りたいと考えておりましたが、コロナ感染症に振り回されて思うようにクラブ活動ができなかったのが実状です。

しかしながら、会員の皆さんの協力のもと、Zoomによる例会を開催したり、クラブとしての活動もなんとか行うことができました。心からお礼を申し上げます。

1年を振り返って残念でならないのは、IDMの開催による会員研修や親睦活動の活性化があまり図れなかったことです。

50周年に向けて、今一度、奉仕の哲学を学び、奉仕の理想を実践していきましょう。



1年を振り返って

高山中央ロータリークラブ
会長 大原 誠

「あなたをHappyにー Make You Happy ー」のクラブテーマのもと“ロータリー賞”の受賞を基本方針として、本年度もコロナ禍のなかでスタートしましたが、その収束も未だ見通せない状況で終わろうとしています。

8月の緊急事態宣言と1月のまん延防止等重点措置の発出により、地域経済への影響とともに会員皆さまにとりまして大変厳しい一年であったと思います。

数回にわたり例会の中止を余儀なくされるなかで、当クラブの主要事業である中学校への出前講座、地区補助金を活用しての青少年育成事業、そしてポリオ根絶募金活動の3つの奉仕プロジェクトを始め、With コロナを踏まえた各ロータリー活動が、田中ガバナーのご助言も頂きながら可能な範囲で、それぞれ実施することができました。

今年度各担当委員長、幹事、理事役員、会員皆さまと事務局のご尽力に感謝いたします。



1年を振り返って

桑名ロータリークラブ
会長 伊藤 明人

コロナ禍でほとんど活動ができなかった前会長から引き継ぎ、私の年度はコロナとどのように向き合ってメンバーの方々と接していくか、喫緊の課題を抱えての船出でした。結果として半分も例会を開催することができませんでした。その中でも家族会と新年例会を開催できたこと、またIMのホストクラブとして、コロナを考えた手作り合同例会を開催できたこと、思い出は尽きません。会長卓話にも、今まで読んだ100冊の古典から、皆様に役に立つ文言を用意しましたが、ほとんどが未発表で終わることになりました。今は菜根譚を読んでいます。ロータリー活動にも役に立つことが多く書かれており参考になりました。静かな活動ではありましたが、皆様への感謝の1年でした。ありがとうございました。



1年を振り返って

桑名西ロータリークラブ
会長 伊藤 道治

歴史ある桑名西ロータリークラブの第44代会長として一年間が終わろうとしています、と言いたいところですが、世間も同様コロナ禍で、通常の例会の半分以下の回数で、例会を行ったとしても、食事もしない短縮例会でした。会員の中には、口々に“こんなロータリーの例会じゃないね”とか“食事もしない例会なんてつまらない”とか聞きました。

“ロータリーは親睦、即ち会場で仲間との食事、楽しい会話といった楽しみがあってこそ、会に出席する魅力があるんだよ”、なんて言われます。

4つのテストの中に“好意と友情を深めるか”の文言がありますが全く機能していません。

私が会長としてこの一年してきた事は、退会しようと思っている人の引き留めが一番の仕事でした、残念で仕方ありません。

コロナが明け、会員の意識が以前の様になることを祈るばかりです。



1年を振り返って

桑名北ロータリークラブ
会長 一柳 毅

今期、40回の例会の開催を予定しておりましたが、結局、半分の20回しか、例会を開催することが出来ませんでした。また、家族例会等の親睦行事もほとんど開催することが出来ませんでした。一番のジレンマは、懇親会や家族例会等の親睦のプログラムを事前に検討したいと思っても、その時にコロナの状況がどうなっているか予想がつかない為、検討が進まないということでした。

今までは、毎週ロータリーが当たり前のことだった訳ですが、コロナが始まってからは、毎週ロータリーではなくなくなってしまいました。毎週例会があって、毎週顔を合わせるということは、大変なこともあったけど、でも、いかに大切なことだったのか、今になって改めて感じています。

どうやらコロナが完全に終息することは難しくそうです。いかにうまく付き合っていくのか。微力ながら今後のクラブ運営にも携わっていきたいと思います。

会員の皆様には大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。



1年を振り返って

四日市北ロータリークラブ
会長 生川 博也

どのクラブでも似たような環境下とは思いますが、今年度もコロナ禍に振り回された一年でした。

この数年間、当四日市北ロータリークラブは会員数二十数名でした。半数以上が会長経験者で、会の事業や活動等もマンネリ化していました。増強は魅力あるクラブ運営には必要不可欠なのですが、新会員とのギャップは広がる一方でした。

只、会長として会を引っ張るだけでなく、活性化への足掛かりを担う役目を仰せつかったと思っています。数年後は、会長、幹事を若い力をお願いして、私たちの想像の遙かを行ってけると確信しています。

しかし、今は我慢の時だと思ひましょう。将来どの方向に進むにしろ、本年度は会を引っ張らないといけません。右も左も分からない新会員の皆さん方を、一人前のロータリアンに育てなければとの思いで、二回目の会長も受けさせて頂きました。今年度は一番重要な例会さえ、コロナの影響で休会続きになってしまい、自分の思いの数分の一も達成できていません。少ない例会の合間に当クラブの事業を何とか熟せたのが少し救いになりました。いずれ時も移り変わり、コロナ禍も笑い話に出来る日が来ると思っています。あれも良かった、これも成功だったと言える充実した一年が来ることを祈念します。



1年を振り返って

桑名中央ロータリークラブ
会長 榎尾 光春

昨年7月に2度目の会長職を拝命して以来、早いもので任期も残り僅かとなりました。前々年度からコロナ感染拡大により社会活動が大幅に制限されるなか、当クラブも例会の休会や各種事業の中止を余儀なくされました。そのような状況のなかで、運営と会員のモチベーションをどのように維持すべきかに取り組んだ1年でした。コロナ感染防止措置が発令中は通常例会は休会としましたが、理事会につきましてはグループLINEを活用して様々な案件を審議しました。また、感染防止措置が解除されている時期を見計らって2度の家族会を開催しましたが出席率の低下は否めませんでした。されど、このような状況にもかかわらず会員を増強できた事、会員の皆さまが健康である事に心から感謝いたします。水谷幹事様、会員の皆さま1年間ありがとうございました。



「愛こそすべて」から「イマジン」へ

四日市ロータリークラブ
会長 九鬼 十三男

第78代会長として「愛こそすべて」をテーマに、愛の心をもって、職業奉仕をベースに、自己研鑽、親睦を深め奉仕活動を進めてまいりました。

今年度シェカール・メータRI会長の「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」「誰かのために生きてこそ、人生には価値がある」という言葉、2630地区浦田幸一ガバナーの「利他の精神」を大切に、「つねに超我の奉仕を胸に」というテーマに向かってロータリー活動を行ってまいりました。

残念ながら、世界はロシアによるウクライナ侵略という悲惨な状況が続いています。

引き続き、次年度RIテーマ「イマジン」の世界へ向けて精進してまいりますので、宜しくお願い申し上げます。



1年を振り返って

四日市西ロータリークラブ
会長 木下 卓也

新型コロナ感染拡大のために、主幹するであった5クラブ合同ガバナー公式訪問例会とIMの中止をはじめ臨時休会、振替開催、プログラム変更がたくさんありました。そのような状況の中でも、ランチレスでの例会を開催したり、往來ができなくなった台湾新店扶輪社とのオンライン合同例会の開催であったり、浦田ガバナー公式訪問例会を四日市グループ各クラブの会長幹事様をお招きして懇親会との同時開催にするなど、今できることを最も有効な形で前向きに運営することを考えてきました。しかし、近年入会された会員の皆さんにおかれては、四日市西ロータリークラブの良いところを十分に感じて頂ける機会が平常時に比べると少なかったことは残念です。会員それぞれがロータリークラブに在籍する意義と目標を持たれて能動的に交流されることを願っています。



1年を振り返って

四日市南ロータリークラブ
会長 羽田 清志

年間プログラム計画を42回としてスタートしたのですが、周知のとおり東京オリンピック・パラリンピック開催と並行して第5波コロナ感染者数増加となり今年になってからも第6波のコロナ災禍により17回の休会を余儀なくさせられました。

クラブ会長としてクラブの運営に当たり、誠に重苦しい日々を送らなければならなかったこと、私ばかりではないと思います。

コロナの災禍も然ることながら、ウクライナへのロシア侵攻は、世界中に不穏な影を落としています。

ロータリー活動は、世界が平和を愛する心を持ち続けることが大切です。

残すところ2ヶ月となりましたが、少しでも魅力のあるクラブとする為、努力する覚悟です。



1年を振り返って

四日市東ロータリークラブ
会長 小川 武士

各委員会さまには、ご尽力を頂き本年の委員会事業活動計画を立てて頂きました。その中で、1998年より継続しております「海とのふれあい」という事業があります。子供たちを招き、海の実しさ・素晴らしさなどを楽しく体験して頂きたい事業ですが、昨今の感染症により大変残念ではありますが子供たち・関係者の健康・安全を第一に考え、事業の中止をさせて頂きました。また、感染防止対策要請に基づき、13回の例会を休会いたしました。このような状況でしたが、要請期間の間に親睦活動委員会のクリスマス例会・新年例会・夜間例会（3回）の実施をさせて頂く事が出来ました。まだまだ例会の開催制限をしなければいけない状況が続きますが、会員・ご家族の安全を第一に考え、楽しめる例会運営を改めて模索しながら、クラブ運営を邁進させていきたいと思っております。



1年を振り返って

鈴鹿ロータリークラブ
会長 山本 行子

1年間で難うございました。この一言に尽きます。本年から多様性、公平さ、インクルージョンを受け入れること。そのための個性を生かすことを大切にいたします。当クラブは女性であることへの偏見を感じることなく、入会時も温かく受け入れて頂きました。この1年不出来な会長にじつと我慢して見守り応援して下さいました。お蔭で自分自身も一生懸命やることで自他一如の法則に従い、勉強させて頂きました。コロナ禍で出来ないのではなく、出来ることは何かと1つ1つの事業を慎重に実行してまいりました。とりわけ幹事様、そして会員の皆様へ助けられ御指導を受けながら無事に終えることが出来ました。ありがとうございました。これからも、ロータリーの会員で良かった、ロータリーに入会したいと思えるよう努力したいと思います。そして、何より自分自身が心からロータリーを楽しみたいと思っております。



鈴鹿西 RC の 2021-22 年度

鈴鹿西ロータリークラブ
会長 田中 通

コロナ禍3年度目の今期、鈴鹿西RCは第37期を迎えました。

防疫への足並みが揃わず、収束の見込みが薄いと見え、会員、会員家族、会員企業・団体を守るために、感染拡大防止セット「11:30の例会開始/45分の短縮例会/例会後の弁当持ち帰り/ハイブリット例会」を用意してこの年度に臨みました。

感染拡大のため臨時休会もありましたが、地区補助金事業「子ども達を守る衛生てぶくろプロジェクト」、深谷公園での植栽作業、鈴鹿市児童詩コンクール等の奉仕活動ができました。特に児童詩に関しては、鈴鹿高校インターアクトクラブとクラウド上での共同作業も実現し、コロナ禍に負けない新しい奉仕の形を共に学びました。今年度最後の奉仕作業では、平和への祈りを込めて深谷公園にウクライナ国旗の花壇を作ります。

"SERVE TO CHANGE LIVES"を体現した仲間を誇りに思います。



1年を振り返って

鈴鹿ベイロータリークラブ
会長 藤田 宜三

本年度は新型コロナウイルスによる感染症が広がる中、昨年同様にロータリー活動が制限された1年でありました。

具体的には鈴鹿サーキットF1レース場にて全国のロータリアンとの友好を深める“F1友愛の広場”が、F1中止のため開催できなかった事、また、ジュニア柔道大会も主幹団体との協議の中で中止を余儀なくされた事です。

同時に、鈴鹿の海岸に松並木を復活させようとして20数年前に始まった、小中学生の卒業記念と連携した、記念植樹も中止となりました。

しかし、鈴鹿亀山地区として行った中学生への出前講座には講師派遣を致しました。また、会員増強に向けては、対象者を全員で挙げ、担当を分担してそれぞれが責任を持って対応しました。結果はまだ出ていませんが粘り強く進めていくことをクラブで確認しました。



1年を振り返って

亀山ロータリークラブ
会長 田中 博之

当クラブは、総勢15名と小さなクラブであり、会長、幹事も全員で順番に交替するのが通例となっています。2020-21年度の会長期に、コロナ禍により例年に予定される行事が半分程しか行えませんでした。会長職の密度も半分ということで、もう一年2021-22年度も会長をやれとなり、2年度連続の会長、そして幹事となりました。

予想通りコロナによる直接の影響が昨年度以上となり、今年度もクラブ活動の大半が中止・縮小となってしまいました。2年続けての中止・縮小となると各会員の例会、行事に対する参加意識も縮小しがちとなります。

そんな中、参加頂いた会員の強い意識を持って、何とかクラブ運営をして頂きました。感謝します。ありがとうございました。

今後、来期に向けてもコロナの状況、そしてロシアによるウクライナ侵攻により、世界情勢・社会環境がどのように変化していくか判りません。社会でも、職場でも、そしてクラブでも、いままでに経験したことのないことがいろいろ起こると思われまます。今以上に、在宅・webなどを活用したクラブ活動に変わっていくのではないかと思います。

小規模クラブの私たちがこの時代の変化に負けることなく、芯の通ったクラブ活動を続けていきたいと思っております。

一年間ありがとうございました。



1年をふりかえって

鈴鹿シティロータリークラブ
会長 佐野 寿

長引く新型コロナウイルス感染症の中、会長に就任しました。感染症が収まるであろうと願いを込めて『新しい社会秩序のなかでのエンジョイ Rotary!』をテーマに活動計画をたてて発進しました。

やはり新型コロナの猛威は続き、例会も休会・短縮例会となり、対外的事業も断念せざるを得ない状況になりました。感染が収まりかけた11月12月には対面でガバナー公式訪問合同例会・IMも行われ、唯一クリスマス例会は多気町のVISONで例会を行いました。

クラブ内では、米山奨学生二人を受入れ、3月には無事旅立っていきました。

4月にはウクライナへの人道支援の為に支援を事業として行いました。

思うような事業も出来ず歯がゆい一年であり、会長の判断・決断に苦勞をした一年間でした。皆様のご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。



1年を振り返って

上野ロータリークラブ
会長 空森 栄幸

昨年、7月会長就任以来、コロナウイルスの感染拡大の影響により、1月の創立記念例会、3月の上野・上野東合同例会、親睦家族旅行等、計画していた予定がすべて中止となりました。

また例会も「楽しい例会」を目指しておりましたが、コロナの蔓延防止重点措置により、4ヶ月程休会となった上に、開催中もスクール形式の短縮例会となってしまい、会員の皆様と十分な懇親を深める機会が持てなかったことが、大変残念でなりません。

そんな中、7月の第1例会にて当クラブの丸山統正さんが米山記念奨学会へ500万円の寄付をされ、叙勲を受けられました。

全国でも500万円の寄付は初めてであることを讃え、米山記念奨学会副会長の水野功氏から直接、丸山さんに表彰状が手渡されました。

残すところ、後2ヶ月となりましたが、当クラブの重要課題であります会員増強についても引き続き会員の皆様にお願ひし、次年度につながるよう実施してまいりたいと思います。



1年を振り返って

津南ロータリークラブ
会長 岡部 宏司

どのクラブも同じような状況だと思いますが、コロナ禍における例会及びクラブ活動は思うようには行えておりません。当クラブは例会開催会場への影響が大きく、昨季に続き例会場の休業に伴い再度の変更を余儀なくされましたが、5月のホテル津センターパレスの開業により、ようやく落ち着くかと思われず。

例会は14回の休会を数え、主なクラブ行事も中止となりましたが、4月24日に会員と御家族の協力の下、志摩観光ホテルにおいて家族例会を開催することができました。当ホテルの樋口宏江総料理長の貴重なお話を戴くこともでき、楽しい時を過ごしました。久しぶりの「手に手つないで」で締めくくりました。

次年度は、新型コロナも例会場も落ち着くことを願います。



1年を振り返って

津ロータリークラブ
会長 大川 親久

今年度の目標は、以前の「普通の」例会活動への復旧でした。例会場であったホテルが撤退したため、新たな例会場が定まるまで漂流の身となりました。幸い2022年5月から新しいホテルで例会を開きます。

コロナ禍のため活動は大きな制約を受けました。そんななか公共施設へのサーモカメラ寄贈事業や、病院院内学級への支援活動などを行いました。また2年半ぶりに4クラブ合同例会を主催しました。一方通常例会においてもディスタンスを意識したレイアウトから少しずつ以前のものへと変遷しつつあります。まだメイクアップをお受けしていないなど制約は残っておりますが、これについては次年度への宿題といたします。困難な1年でしたが、いろいろ知恵を出し合い少しずつ前進いたしました。関係者の方、皆様に深く感謝いたします。



1年を振り返って

名張ロータリークラブ
会長 幸松 孝太郎

昨年7月の就任以来、クラブ運営は荒波の連続でしたが、活動状況については、他クラブとの交流として、伊賀4クラブ合同例会を実施。会員親睦は、昨年度理事等の慰労会や新年祝賀例会、年2回の親睦家族例会にて実施できたこと。

コロナ禍のため、例会は11回休会になったが、今年度目標として、SDGsを掲げたことは、R財団補助事業「子ども食堂」「地域の居場所」の活動支援とグローバル補助金事業「2630地区とタイ国第3330地区との共同プロジェクト事業」の支援事業が実施できたことや、会員卓話でSDGsの勉強会が実施できた。

また、良かった点として、活動改善委員会を立ち上げ、改善点を例会時に周知したことや、次年度に向け創立60周年記念事業委員会で、この記念事業の成功をきっかけに、さらに当クラブの飛躍を図っていきたい。

最後に、オンライン理事会の開催や、会員のLINEを開通し、事務局からの連絡や会員同士の情報交換ができるようになったことは、記念すべき1年となりました。



1年を振り返って

津北ロータリークラブ
会長 山本 有人

2021-22年度、津北ロータリークラブ会長を務めさせて頂いた山本です。草深幹事様、理事役員の皆様、全会員の皆様、中野事務局様のご協力により何とか会長職を終える事ができはつとしています。皆様、本当にありがとうございました。この1年もコロナ感染拡大によりおおきな影響を受けました。非常事態宣言、まん延防止等重点措置に伴い8月9月にかけて休会、1月2月にかけて休会になりました。今年度は、山口ガバナー補佐年度でしたIM、ポッチャ大会等を企画運営しなければなりませんでしたが、コロナの影響で結局は中止となりました。東観中学校への出前授業、三重大学小児科病棟へのプロジェクターを寄贈した事など細やかな活動ではありましたが、出来た事、嬉しく思っております。最後に早くコロナが終息し通常例会が行われる事を願っております。本当に1年間、ありがとうございました。



1年を振り返って

上野東ロータリークラブ
会長 上村 良一

7月に会長と言う大役を仰せつかりクラブのリーダーシップを背負い、自分自身の会長としての立場をしみじみ感じて参りました。

クラブのスローガン「できる事から実践しよう」を元より、各奉仕事業を行う予定でしたが皆様もご存じのように、約3年前に他国から入って来た「新型コロナウイルス」の感染拡大の為、事業が延期あるいは中止となり、思うように事業が進まなかった事をお詫び申し上げます。一年間ありがとうございました。



1年間を振り返って

久居ロータリークラブ
会長 長谷川 靖

今年度の取り組みは、久居中学校2年生160名を対象に職業講話を11月30日、12月2日の2日間、8名の会員に頂きました。全員が自分の職業に自信と誇りをお持ちなのがよくわかり、これこそ職業奉仕の本質的な所かもしれません。この出前授業は、翌日からZTVで放送され、後日ふるさと新聞にも掲載されました。また、この中学校の西隣に高通児童公園があり、少し荒れた状態になっており、この公園を複数年度にわたり整備することにしました。今期は、ベンチを再塗装し、来期は、地区補助金を頂き、花壇等を整備する計画をしています。昨年は高通公の久居入府350年の記念の年でした。平成の大合併で久居の名前が消え早16年が経ちました。久居の歴史も学びながらの親睦活動も計画しており、いろんな面で久居を語れるロータリアンでありたいものです。



1年を振り返って

名張中央ロータリークラブ
会長 仲田 栄二

二度目の会長ということで、経験に基づくクラブ運営を考えるとところです。しかしながら、新型コロナウイルスの蔓延によって通常の例会を継続することすら困難で、会員相互の親睦を大きな目標にしていたのですが、思うような活動を行うことが出来ませんでした。

そのような状況下にあっても、長年継続している環境保全事業、社会奉仕事業は地域の伝統文化への協賛、また地元の高校生の手作りの巾着袋を高齢者施設に送ることが出来ました。とりわけ、巾着の制作につきましては、会員夫人の着ることがなくなった着物の生地の利用をしたのですが、女性会員ならではの細やかな発案でした。

大過なく今年度が終われそうですが、これもひとえに会員の皆さんの協力とご婦人方の理解の賜物と感謝しております。本当にありがとうございました。



1年間を振り返って

松阪ロータリークラブ
会長 鈴木 一司

本年、開催を主管するIMを成功させるためのクラブの連帯感の醸成とロータリー愛をより一層育てて頂く事を目標に掲げさせて頂きました。残念ながら、新型コロナウイルス感染防止の措置として8月・9月・1月・2月の4ヶ月間休会となりIMは開催することが出来ませんでした。8ヶ月の例会を通して連帯感の醸成は十分に図れたのではないかと思います。また、会員増強を掲げ期首より4名増の78名にてロータリー愛を一層育てるための親睦例会の1年にして頂いた事、会員の皆様に心より感謝申し上げます。

No change as usual

私自身、いつも通りに

ロータリー活動を楽しむことが出来ました。

ありがとうございました。



1年間を振り返って

松阪東ロータリークラブ
会長 阪井 政男

1年間、RI会長テーマ「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」また、浦田幸一ガバナー方針の「つねに超我の奉仕を胸に」を念頭に置き、「先義後利」他者を優先し自分の利益を後にする。相手の喜び、自分も貢献感で得心し、利益は後から付いてくるという考えでロータリー活動に邁進してまいりました。

残念ながら、8月・9月・1月・2月の4ヶ月間例会を開催することができず、また地区大会やIM、クラブ内での主な事業がほとんど開催できませんでした。特に入会浅いメンバーには、本来のロータリー活動の素晴らしさ、会員の交流など伝えきれなかったことが残念でなりません。しかし、ロータリー活動は永遠に続きます。次年度以降、一会員としてロータリー精神を忘れずに活動していきたいと思っております。一年間ありがとうございました。



1年間を振り返って

熊野ロータリークラブ
会長 野地 俊行

会長就任に当たり、最初に行動したことは、クラブの活性化の為のCLPの作成でした。そして、今年度はCLPの初年度としての位置づけで、「一人ひとりが充実感の持てるクラブ作りと奉仕をしよう」という方針のもと事業計画を作成し、活動を開始しましたが、当地区でのコロナ感染者が毎日発生する状態の日々が続き例会が開催出来ない年でした。このような状況の中でも、毎年行っている奉仕活動に加えて、グローバル補助金事業への参加、及び、地区補助金の申請をすることが出来ました。又、オンライン例会の環境づくりも完了することが出来ました。このような意味で、ロータリークラブとしての基盤が少し出来てきたように思います。最後に、これらの活動にご協力頂いた会員に心から感謝を申し上げます。



感謝の一年

尾鷲ロータリークラブ
会長 天満 二也

コロナ禍の厳しい状況でスタートした今年度は、当初から行事の中止や延期が続いたが、

- ① 11月にガバナー公式訪問(熊野RCとの合同例会)開催
- ② 3月に地区補助金事業である植樹祭を、小学生達と共に実施
- ③ まん防発令中の1月から、LINE例会を10回開催するなど、行動制限を余儀なくされる中においても、出来ることをやりきるという考えを実践できたことが、私にとって大きな自信となった。

これらはすべて、総勢11名の尾鷲ロータリークラブの会員達が目標を共有し、一丸となって行動した結果であり、すばらしい仲間達に心から感謝したい。

新年度も、新会長と共にみんなで頑張ろう！



一年を振り返って

伊勢ロータリークラブ
会長 有田 智史

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行は、私たちのロータリー活動にも大きな影響をもたらしました。

感染拡大防止対策により、短縮例会、例会休会等を余儀なくされ、会員同士の人間関係が希薄化している中、コミュニケーションを図ることに難しさやもどかしさを感じざるを得ない1年となりました。

強いクラブにするには、会員同士の親睦と全体事業により人間関係を強固にすることが重要であると考え、本年度は、月1回の夜間例会を予定しておりましたが、感染拡大防止対策を考えた結果、万全を期して中止といたしました。

早朝ウォーキング例会は、健康と親睦の両方をコラボした例会で、楽しく和気あいあいと執り行う事が出来ました。

私は、今年度「ポールハリス」を想い「超我的奉仕」の理念を心新たにロータリーのあり方を理解した1年でありました。

これからもロータリアンとして自覚と誇りをもって活動していきたいと思っております。

最後に、お支えくださいました皆様に御礼申し上げます。
1年間大変お世話になりました。



1年を振り返って

伊勢南ロータリークラブ
会長 森本 則晃

今年度、当クラブは創立55周年を迎えました。本来は、令和4年3月19日に姉妹RCの台湾台東RCや近隣RCの方にもご出席を頂いて創立55周年祝賀会を開催する予定でしたが、コロナ禍の中、祝賀会は中止とさせて頂きました。その代り、5月12日に「創立55周年を祝う会」を鳥羽国際ホテルにて、会員と配偶者のみで無事に開催することが出来ました。

コロナ禍も3年目を迎えています。正常な例会運営に戻ることが出来ていません。今年度も5月10日現在で12回の休会となっています。また、出席免除が続いています。来年度こそ、通常の例会に戻ることを祈っています。

最後に、この1年間、幹事を始め、理事・役員、会員の皆様に支えられ、ご協力を頂いたことに感謝いたします。



感謝

松阪山桜ロータリークラブ
会長 小濱 彰男

コロナウイルスで世界中が混沌とした2年間。その中の、この1年間、会長としてコロナ禍で様々な計画をいたしました。そして見えたものは大変良きパートナー(幹事)と巡り会えたことでした。当初、予定の幹事が変更になり、不安もありましたが蓋を開けてみれば地区協議会、地区大会の準備、クラブ行事の準備、どれもコロナで中止か開催かわからない中、もし開催された行事があればすぐにでも対応できる準備をしてくれていたこと、感謝の一言に尽きます。昨年末、コロナが急に落ち着き始めた時の例会開催は、準備、感染予防対策が完璧でした。その他、色々な手配や各委員長への指導も完璧でした。不安な世の中で見た大きな宝物でした。ロータリークラブで増えた1つの財産に感謝、ありがとうございました。



1年を振り返って

鳥羽ロータリークラブ
会長 野村 一弘

本年度の鳥羽クラブは「本質を極めよう」をテーマにして活動を行いました。

新型コロナの影響で例会は2021年8、9、10月に6回、22年2、3月に6回の休会があり思うに任せませんでした。保育児・小学生を対象にした絵画コンクールと絵画教室の実施、地区補助金を活用した生活弱者対象のこども食堂を秋春2回、フードパントリー(食料支援)を春1回実施した。6月には障がい者施設とクラブメンバー対抗のボッチャ大会を開催の予定です。市立図書館への蔵書寄付、歳末チャリティ募金を障がい者施設の車購入資金に寄付などがメディアに取り上げられました。

地域社会に奉仕するロータリー活動を知って頂く年度であったように思う。



1年を振り返って

志摩ロータリークラブ
会長 山本 久代

今年度の事業では、「変化する時代に新たな発想で地域に奉仕を」というクラブテーマを掲げ、プロのクリエイターや目標に向かって努力する子どもとその指導者などを取材、撮影動画を「志摩の匠ときら星」と題してYouTubeとフェイスブックに投稿し、コロナ禍でも明るく頑張っている人達を地域の人々に広く紹介いたしました。初めての試みでしたが、地域の人達を元気にし、また、クラブ会員にとっても取材・動画撮影等を自分たちの手で行ったことはとても良い経験となりました。

また、国際奉仕委員会事業でも、バリタマンRCと連携し、衛生環境支援事業として、バリの山奥の地にトイレを21軒設置できたことは大きな成果だと思います。他にも各委員会が活発に活動を行いました。このような充実した1年間を送れたのも、一重に会員皆様の奉仕の心の賜物と会長として感謝いたします。



1年を振り返って

伊勢中央ロータリークラブ
会長 木村 健一

本年度、我が伊勢中央ロータリークラブは、国際ロータリー第2630地区の浦田ガバナーをはじめ、ガバナー事務所の円滑な運営と、各幹事による多くの役割を担ってまいりました。また、地区大会を開催するにあたり実行委員会を立ち上げ、様々な企画立案を立て、映像による地区大会を開催することが出来ました。ひとえに伊勢・鳥羽・志摩グループの皆様のご心温まる協力、そして第2630地区のクラブ様及び、すべてのロータリアンの皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

最後に、私の一年の締め括りとして、今年度を機に会員一人ひとりが利他の精神を重んじ、さらに一致団結して、クラブの明るい未来につなげていくことを願います。



1年を振り返って

伊勢度会ロータリークラブ
会長 奥野 幸良

本年度もコロナ禍でのスタートとなりました。ガバナー公式訪問は多人数になる合同例会は難しく、クラブ単独の訪問をガバナーにお願いしました。伊勢度会RCは少人数が故に、密にならず感染防止に努め、まん延防止等重点措置の発令時以外は、with コロナで出来る限り例会を開催する方向で考えてきました。その様な中、R財団補助金事業において、南伊勢町の小学校の5・6年生を対象に、SDGsに関連した環境の授業と植樹の実践が出来たのは幸運でした。今後はwebの利用も交えながらのクラブ運営が行われていくと理解しつつも、やはり対面での感動には代え難いものがあると思えました。また、今年度は新会員の入会があったことも嬉しいことでした。会員皆様のおかげで創立25周年を終えることができ、感謝、感謝の1年でした。

2021-22年度 ガバナー補佐挨拶



1年間、ありがとうございました。 岐阜Aグループガバナー補佐 森 益男 (岐阜中RC)

2021-22年度の1年は、30年余りの私のロータリアンとしての時間の中でも特に重要な1年になりました。今年度も2年以上続くコロナ禍のなか、地区大会や多くの事業が中止や縮小になり、会議の多くがZoomによるリモート参加を余儀なくされたことは、正に残念の一言ではありましたが、また年初より楽しみにしていた、グループ内や地区内のAGの方々との交流も十分に出来なかったことも心残りではありません。

ただ、そんな中でも「IM及びガバナー公式訪問合同例会と会長・幹事懇談会」「ガバナー杯ゴルフコンペ」と前夜の懇親会、そして各クラブへの「例会訪問」等は十分に刺激的で忘れられない思い出です。また毎月の「ガバナー月信」は興味深く、特にガバナーのメッセージとコラム欄は強い共感を持って拝読しておりました。

最後になりますが、コロナ禍に加えロシアのウクライナ侵攻という国際的にも多難な時期に地区リーダーとして活動された浦田ガバナー、暖かい配慮で支えて頂いた玉木代表幹事とスタッフの皆さんにも心から感謝申し上げます。有難うございました。



1年を振り返って 岐阜Bグループガバナー補佐 豊田 雅孝 (岐阜東RC)

ガバナー補佐としてあつという間の1年でしたが、グループ内6クラブへの訪問、クラブ協議会で多くの皆様とお会いする事ができました。

多くのロータリアンと接するなかで、各クラブそれぞれの特徴や雰囲気を肌で感じることができ、大変勉強になりました。コロナ禍でも各クラブが工夫しているいろいろな活動を展開していることにもロータリーの力を感じ勇気づけられました。

地区大会は中止となり、地区の行事が少なくなったのは残念でしたが、そんななかでも11月のガバナー公式訪問例会、インターシティミーティングが開催できた事はよかったですと思います。大阪ロータリー辰野勇会員を講師にお招きできた事はロータリーの友情を感じました。また浦田ガバナーに御尽力頂き、多くのロータリアンのご協力で記憶に残るIMになりました。

今年度、岐阜Bグループの運営にご協力頂きました6クラブの会長、幹事、会員の皆様にご心より感謝申し上げます。今後の岐阜Bグループの益々の発展を祈念しご挨拶と致します。



コロナ禍の AG 1年

岐阜西濃グループガバナー補佐 後藤 博美 (岐阜サンリバー RC)

今年度岐阜西濃グループガバナー補佐として昨年7月に始まり上期のAG訪問は、9RC順調に訪問をすることが出来、今年こそはコロナ禍も沈静化し活動ができるかとスタートしましたが、9月のガバナー杯チャリティーゴルフ予選会中止、10月に予定していた岐阜西濃グループ9RCのガバナー公式訪問・会長幹事懇談会・合同例会・IMも翌年2月に開催延期、年が明け益々コロナが増え2月のIM中止決定、せめて9RCからはガバナー懇談会を致したいとの意見があり、そこでZoomオンライン会議で、2月7日にガバナー・9RC会長幹事懇談会をZoom開催することが出来ました。ガバナーメッセージ、9RC会長からは各クラブ1年の活動報告発表、この模様をDVD収録し各クラブに配布、2月の下期ガバナー補佐訪問は、1クラブZoom開催訪問あと1RCはダイレクト例会訪問を7RCの中止クラブには、PPTを各クラブにメール配信いたしました。3月開催の年度集大成の地区大会も中止、せめて次年度申し送り引継ぎ会・懇親会は行いたいところ、6月11日(土)に地区役員引継ぎ懇親会が志摩観光ホテルに於いての開催される旨の案内が到着しました。開催できることを願って、コロナ・コロナの1年を終える事が、出来そうです。最後にこの1年間ご協力賜りました会員皆様へ感謝申し上げます、1年を振り返って、と致します。ありがとうございました。



1年を振り返って

岐阜東濃グループガバナー補佐 山田 幹雄 (瑞浪 RC)

コロナ禍で振り回された前半から一遍。2月に会長幹事地区出向者会議を初めて開催、ロータリー活動の新しい提案ができました。4月には何度も延期の上、ご苦労された恵那クラブの創立60周年も無事挙行で安堵いたしました。前半期の予定であったガバナー公式訪問は東濃グループを3ヶ所に分けた合同例会でIMも同時実施する連続3日間のハードスケジュールで、浦田ガバナー・玉木代表幹事・八木事務局長には大変ご厄介をおかけしました。ありがとうございました。IMは東濃8クラブ会長の1年間のコロナ禍対応のご苦労をアンケート形式で収録した「コロナ禍の下のロータリー活動」のDVDを作成しました。やはり、コロナ禍でのロータリー活動の運営は平常時とは誠に異なり、そのご労苦は大変であったと推察し、ご努力に敬意を表します。ガバナー補佐はグループ内8クラブとの係わりをいかに持つことが大事であり、その役目は名誉職ではなく、会員と同様なプレイヤーであることを再認識する場となりました。



1年を振り返って

東海北陸道グループガバナー補佐 村下 侑刑 (美濃 RC)

東海北陸道グループのガバナー補佐を受けたときは2020-21年度の美濃RCの会長であり後半に入って暫くの頃はガバナー補佐予定者としての準備活動とクラブ会長としての後半の活動がオーバーラップした状態が半年間程続きました。ですから始めのうちはガバナー補佐予定者としてのクラブ訪問時には美濃RC会長の名刺とガバナー補佐予定者の名刺の2枚を用意しておりました。又ガバナー補佐は文章を書く事が多かったのが苦痛でしたが、ガバナー公式訪問とかIMの際にガバナーや地区代表幹事さんをはじめ各役員さんと顔を合せる時は結構楽しく思えたのが印象に残っております大変な中にも出会いがあったり得るものも色々とありました。又自分のクラブ以外のクラブで余り知らないクラブもありましたけれども1年間を通して他のクラブのロータリー活動等素晴らしい行事を知る事によって勉強になる事もありました。又新たな事を知ったり新たな友人ができた事により自分の世界が広がる感じが楽しさを実感しております。又コロナ禍により省略された活動もありましたが、それはそれで色々工夫され新たな方法を考え出すきっかけとなり結果として進歩となったと思います。これ迄なかった貴重な機会を頂き、尊い体験が出来ました事は人生における生きる上での幅が大きく広がった様に思えます。ロータリアンの皆様に感謝であります。ありがとうございました。



1年を振り返って

濃飛グループガバナー補佐 住 宏夫 (高山 RC)

年当初は、コロナウイルス感染症も取まると思いロータリー活動も昨年度より活発にできると考えていました。しかし、実際には昨年度以上に活動が制限されていたのが現状でした。会長幹事懇談会、ガバナー公式訪問、IMのすべてを中止しました。できた事業は、ガバナー杯ゴルフ大会の予選のみでした。ロータリー活動で楽しみなのは、和気あいあいと親睦を深められることです。それができなかったことは大変残念でした。年度後半にきて、ウクライナ問題も起き、私たちの生活にも大きくかかわってきました。そんな時、ふと考えさせられたのが第2次世界大戦後の市民生活やロータリー活動でした。先輩たちの思いはどうだったのか、どんなロータリー活動を求めているのか振り返るのも必要だと思いました。新しい世界でどのように活動していくのかじっくり考えるのが今かもしれません。今後のロータリー活動に期待していきます。

1年間ありがとうございました。



AGを終えて

桑員グループガバナー補佐 伊藤 巧 (桑名 RC)

新型コロナウイルスと義援金に振り回された1年間でした。コロナ禍の中、「日時の変更」「中止」「何時でも中止」を念頭に活動してきました。

グループ内は「クラブ訪問」「10月ガバナーアッセンブリー」「4月IM及びガバナー公式訪問合同例会」等を行いました。コロナ以前同等の活動を致しました。グループ外は地区大会等がなくなり残念。その他として多くの災害や戦争の義援金のお願いと御礼。個人的には、リモート会議が多く他のAG・地区役員の皆さんと交流がなかなか持てなく非常に残念。振り返ればグループ内外とも精一杯活動致しました。コロナ禍の中の活動は、将来の地区運営特にグループ内に成果と課題の対処法を多く残したと確信します。次年度一色利之AGが、十二分な地区活動をできます様に皆様のご協力を期待しています。

最後にコロナが終息し、戦争がなくなり、災害が少なくなり、通常生活・活動が1日でも早くできることを願っております。



1年を振り返って

四日市グループガバナー補佐 伊藤 康彦 (四日市西 RC)

今年度で3度目となる新型コロナの顔色を眺めながらの1年となりました。

四日市グループではガバナー公式訪問合同例会とIMが第5波の只中と重なり、今年度の開催を見送ることとなり大変残念でした。また、準備が整った段階での地区大会の中止に至っては、浦田ガバナーも断腸の思いであられたことと拝察いたします。

私の学びとしては、せっかく頂いた機会でもあり、RI決議23-34の資料を読んで、その精神は今でも脈々と活きていることを確認できましたし、浦田ガバナーから地区方針のエッセンスをお聞きして、各セミナーの参加を通じて改めて感じましたことは、やはり大切なことは日本の社会人であり日本のロータリアンとして、「四つのテスト」「職業奉仕四つの反省」この2つの実践こそが、生涯を通じた自らの研鑽であり、もっとも効果的であると改めて感じました。

多くの活動や行動に制約があった年でありましたが、その中であつても多くの出会いと気づきを得られたことに心から感謝申し上げます。



1年を振り返って

鈴鹿・亀山グループガバナー補佐 樋口 政司 (鈴鹿 RC)

ガバナー補佐と言う重責を担って不安ばかりでしたが、私の務めは浦田ガバナーの方針をグループ内に浸透させてメンバーに行動してもらう事と理解してやってきました。その方針とは【職業奉仕】【増強拡大・退会防止】の2点としました。

IMを入れて4回の訪問時にそのことを実行しました。30分間そうそうたるメンバーの前で話をするには私が学ぶ事になによりも求められました。1年にこれほど多くの話をする機会は今までにまた、今後もないだろうと思います。おかげで2点については以前には知らなかった事を学べました。その事がロータリーの奥行きを広げて新たな知識となり会社運営にも生かされて来たと感じております。とりわけ【職業奉仕】と言う言葉はロータリー用語で普段の生活にはなかった言葉です。この言葉が私の仕事に新しい自身と方向を見つけてくれた事は望外の喜びです。

最後に関係して頂きご協力頂いたガバナー事務所様はじめグループ内クラブの方々に御礼申し上げます。



1年を振り返って

中勢・伊賀グループガバナー補佐 山口 久彦 (津北 RC)

去年7月の8クラブ訪問からあと少しで1年となりました。コロナがこんなにも長引くとは予想だにしないのですが、秋には収束に向かうのかなと思っていました。しかし現実はその甘くなく今やっと先が見えてきた感じだと思います。私自身も思いもよらない病気が判明しなんとか治療の合間にすることになりました。私の役目は中勢・伊賀8クラブとガバナーの意思疎通を図ることですが計画したIM、ポッチャ大会、ガバナー訪問(津地区)が延期、中止で出来ず本当に残念でなりません。クラブ訪問も12月は私の治療と重なったりして全部のクラブ訪問が出来ませんでした。この6月はやっと普通に訪問して役目が果たせるのかなと思っていました。8クラブも短縮例会や休会など苦勞されたと思います。地区の行事もズームで行われて直接交流出来なかったのですが、会員の皆さんには十分な役割が果たせなかったこと本当に申し訳なく思っています。またこの1年考え思ったことは人と人が直接会って話合ったり交流することがいかに大事かということが判りました。これからもロータリアンの一員としてよろしく申し上げます。



1年をふりかえって

松阪・東紀州グループガバナー補佐 平井 義之 (松阪 RC)

2021年7月より松阪・東紀州グループのガバナー補佐を拝命しましたが一昨年より続く新型コロナウイルス拡大の中、十分なクラブ活動ができず5クラブの皆さまには申し訳なくお詫び申し上げます。

今、ふりかえりますともう少し積極的にアプローチする方法があったのではないかと忸怩たる思いです。

各クラブではコロナ下においても短縮例会や Zoom 例会等、試行錯誤を重ねながら活動を継続されましたことに敬意をこめて感謝申し上げます。

グループ行事としてのインターシティミーティングや一部公式訪問が中止やむなきに至りましたが、あらためてロータリーの原点はクラブの例会活動であることを再認識させて頂きました。

ウィズコロナ時代におけるロータリー活動の模索がこれからも続きそうですが各クラブのますますのご発展を祈念しています。

あまりお役に立てない1年間でしたが、私にとりましては多くの出会いにめぐまれた貴重な1年でした。

グループ内の皆さまに厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。



1年を振り返って

伊勢・鳥羽・志摩グループガバナー補佐 佐藤 薫 (伊勢南 RC)

A Gの任期がコロナの見通しがつかない中から始まり、以前には戻らずに終わろうとしています。年度初めの公式訪問は8月のコロナの猛威の前に行えました。その後はいろいろ工夫してこなしました。計画通りにできた事業は『ガバナー杯ゴルフ大会』のグループ予選くらいでした。屋外での事業であり、グループ内のクラブの交流が図れました。

活動が困難な中、グループ内の各クラブは工夫をして様々な奉仕活動を行いました。

伊勢度会クラブは南伊勢町の子供たちと一緒に植樹活動を行い、その意義を小学校への出前授業で子供たちと学び、植樹の事前準備を重ねての丁寧な奉仕活動を行いました。

志摩クラブは、『志摩の匠・志摩のきら星』として志摩で活躍する匠や若いグループを取材し配信しています。皆さんも検索してみてください。

鳥羽クラブは以前から続けている青少年奉仕『こども食堂・フードバンク』、障がい者を交えた『ポッチャ大会』小学6年生を対象にした『イングリッシュデイ』などを行いました。

I Mも行えませんでした各クラブの充実した奉仕活動に助けられました。1年間ありがとうございました。

2021-22年度 委員会 委員長挨拶



1年を振り返って

研修部門
研修委員会
委員長 木村 静之 (岐阜加納 RC)

当委員会の役割は、ガバナー・ガバナーエレクト・地区委員会が主催する研修行事をサポートすることです。また、各クラブの研修リーダーや情報委員長と連携してクラブ内の研修をサポートすることです。当委員会には地区委員長経験者やガバナー補佐経験者などが顔をそろえています。地区研修・協議会の分科会での講師を担当し、クラブ例会に出向き卓話を行いました。

ロータリーは伝統的に、四つのテストを掲げ、立派な職業人を育てるという教育的機能を重んじています。地区の研修行事も大切ですが基本はクラブにあり、クラブ例会を研修・研鑽の場として大切にしたいと思います。各クラブの研修リーダーの皆様には「ロータリーの本質と存在理由」さらには「ロータリーの真の魅力は何か」という基本を研修して頂きたいと思います。



この1年を振り返って

職業奉仕委員会
委員長 原尾 勝 (岐阜北 RC)

今期の浦田丸は、コロナ禍での船出となり心配しておりましたが秋の気配が近づくに連れ落ち着き始め、R I第2760地区のバスターガバナー村井総一郎様をお迎えしての職業奉仕研修セミナーを無事開催する事が出来ました。昨年度は、コロナ禍で出来なかつただけに感無量の思いです。処が、寒さが深まるに連れ蔓延防止となり、多くのクラブからの卓話要請が無くなってしまいました。そんな折、当委員から凄いい企画が提案され何とか短い期間で立ち上げる事が出来ました。国連親善大使で国際ロータリー元理事、裏千家15代前家元の千玄室大宗匠(京都 RC)による特別大講演であります。航空自衛隊岐阜基地内での開催である為一部の方のみの参加となりましたので講演の動画を地区ホームページにアップします。是非ご覧下さい様お願い致します。また、この内容等を含めて職業奉仕の卓話をさせて戴きますので是非、声をお掛け下さい。残念ながら地区大会は中止になりましたがそれに匹敵するくらいの大講演会を実施する事が出来ましたのは嬉しい限りです。多くの関係者の皆様に感謝申し上げます。有り難う御座いました。



この1年を振り返って

公共イメージ委員会
委員長 近藤 浩史 (岐阜東南 RC)

委員長になって1年目のこの1年間の大半の期間は、コロナの影響もあり委員会活動が思うように進みませんでした。特に、「地区のクラブの例会に出席して、クラブ訪問レポートを地区のホームページに掲載する」という今年の委員会の柱となる活動が、ほとんどできませんでした。そのような中、新任の委員長として委員会の融和のため、委員会の皆さんとコミュニケーションを取ることに努めました。そして毎月のように委員会を開催することに決め、コロナでリアルでの委員会を開催できない時は、リモートでの委員会開催をいたしました。そのリモートでの委員会開催は年間5回になり、特に夜間の時間に開催することにより、委員の皆さんがリラックスして、自由な発想で意見が自由に発言できるようにいたしました。

公共イメージ委員会は、以前の広報委員会の延長にある委員会ですが、4年前から「ロータリーの公共イメージの向上」というテーマで、新しい組織として生まれ変わりました。そのため、どのような活動をすればよいか現在は試行錯誤の時期であり、委員の皆さんから様々な立場から自由な発想の意見を聞くことにより、委員会としての活動の幅を広げることに努めました。

このような委員会活動を通じて、第2630地区の公共イメージ委員会としての今後の委員会活動の方向性が見えてきました。その一つとしては、ロータリアンによるSNSを使っての情報発信が日常的にできるようにと、地区の公式 Facebook グループのページを作成いたしました。多くのロータリアンが自ら情報発信することで、ロータリー活動を多くの一般の人にとって頂くことができ、そのことがロータリーの公共イメージの向上につながるかと信じています。今後も公共イメージ委員会活動へのご協力を宜しくお願いいたします。



1年を振り返って

会員増強委員会
委員長 中村 薫 (鈴鹿 RC)

ロータリーにとって会員増強は最重要項目であり、留まることのできない委員会を担当させて頂いております。委員長2年目の今季もコロナ禍の最只中にあり、クラブの増強委員長を始めとした多くの会員の皆様の活動にご協力、ご支援を得ましたが、残念ながら多くの会員を増やすことは叶いませんでした。

しかし、休会が多かった1年ではありましたが、コロナの影響による減少も最小限に抑えることはできたと思っております。これは会員の皆様のロータリーに対する思い、情熱が、苦しい中でもロータリー愛によって、負けることはなかったと確信致しました。

次年度に向けては様々な研修もリアルで行われており、少しは希望が見えてきたように思います。

一人一人の活動を大きな輪にすべく、皆様のご協力を得ながら次年度も活動して参りたいと思っております。1年のご協力誠にありがとうございました。



1年の活動報告とお礼

多様性推進小委員会
委員長 川原 直美 (熊野 RC)

多様性推進小委員会は、劔田ガバナー（当時）が、発案されて活動を始めた委員会ですが、他地区にはない先進的な委員会なのではないかと当初からワクワクした気持ちでいました。しかし、今年度も流行り病の影響から昨年に引き続き活動に制限がかかり委員会活動もなかなかできずに過ぎていきました。

そのような中、今年度は、浦田DGからぜひ女性会議を開催するようとお話を頂き、また劔田直前ガバナーからご紹介頂いた同期の女性ガバナーお2人（漆原撰子様と藤井秀香様）をお迎えして11月に「第1回女性会議（副題：多様で公平で開かれたロータリー）」を開催することが出来ました。また会議の前後に皆様から頂いたアンケートも今後の活動の励みや参考になるものが多く、皆様方にエールを戴いた気持ちになりました。1年間、ありがとうございました。



1年を振り返って

衛星クラブ推進小委員会
委員長 大谷 浄治 (四日市 RC)

コロナ禍の下、あっという間に過ぎた1年でした。衛星クラブについて資料を集め、自分なりに纏めを作り、お問い合わせを受けた際には、衛星クラブのイメージをお伝えできるようになりました。My Rotaryに記載されている衛星クラブのガイドなどの公式情報に加えて、昨年、ロータリーの友に衛星クラブの特集記事が掲載されました。「多様な仲間を増やす ロータリー衛星クラブ」（ロータリーの友・令和3年8月号）をご一読ください。アンケートで集めた全国の衛星クラブの声とデータが紹介されています。活性化、会員増強の手段としての衛星クラブという視点から、今後のヒントを得ることが出来ると思います。ロータリアンお一人お一人の絆を繋いで、当地区でも衛星クラブの創設により会員増強に寄与ができればと思います。



1年を振り返って

奉仕プロジェクト部門
委員長 篠原 一行 (多治見リバーサイド RC)

委員会活動もコロナ禍の中、色々と制限を受けてきました。奉仕プロジェクト部門合同委員会、社会奉仕委員会、国際奉仕委員会共に、ズームでの委員会でスタートしました。各委員会の連絡も電話とメールで、新しい委員会メンバーと対面でお話ができなかったこととても残念でした。

12月には久しぶりに対面で、FACE TO FACEで奉仕プロジェクト部門、そして社会奉仕委員会、国際奉仕委員会が出来たこと、大変うれしく思いました。そして年が明けてからはほぼ例年通りに委員会活動ができました。

「奉仕プロジェクト部門」として「社会奉仕委員会、国際奉仕委員会を支援する役目」を第一に、各委員会が各クラブの地域活動や、海外支援活動をしっかりとフォローすると共に、各クラブへの支援を勧めてまいりました。

コロナ禍の中、卓話依頼は例年に比べて少し少なかったようです。ロータリーの奉仕プロジェクトは、何処にでも誰にでも、垣根なく奉仕のために駆け付けることが、望ましい姿でしょう。奉仕プロジェクト部門は、引き続き地区内クラブへの支援活動を、積極的に勧める部門委員会でありたいと思っております。1年間ありがとうございました。



1年を振り返って

国際奉仕委員会
委員長 勝川 生年 (美濃加茂 RC)

今年度は、コロナウイルスの影響を受けながらも2つのプロジェクトを完了することが出来ました、その成果は4月の「地区研修・協議会」にて担当クラブの発表をもって次期各クラブ奉仕委員会の委員長に御紹介させて頂きました。

しかしながら、プロジェクト完成を現地にて共に祝う事が出来ず、悔しい思いが鬱積されます。私の希望も含め2022年秋頃には、海外現地に赴いてプロジェクトの進行経過を確認出来るかと予定しております。

社会奉仕委員会との合同委員会はWEBを含め3回開催出来ました。6月に最終委員会を行い次年度に繋ぎたいと思っております。次年度は新たな委員長を迎え躍動感溢れる委員会に進化する事を期待しています。

国際奉仕とは、物資や金銭で支援する事を結びの架け橋として互いの友情を交わし高める事が「真の目的」と広報に努めたいと思っております。



1年を振り返って

社会奉仕委員会
委員長 石田 公司 (美濃加茂 RC)

私たち社会奉仕委員会の役割は地区内のクラブが新しい奉仕プロジェクトを考え実行するための手助けをし、参考事例を紹介することだと考えます。

そんな中、地区のホームページを見ると実に様々な奉仕活動を各クラブが行っていることに感心します。コロナ禍でも時事対応した多くの事例が展開されています。是非参考にしてください。

さて今年度も委員会もコロナウイルスの拡大により十分な活動ができませんでした。オンラインや電話でしかメンバーに会えず歯がゆい思いをしました。幸い12月には直接会合出来て本当にありがたいものだと感じました。

出張卓話も思うようにできず残念ながら2回の機会しかありませんでした。

今年の活動は十分とは言えませんが今後も各クラブの支援を行っていきます。

本年はご支援ご鞭撻ありがとうございました。



1年を振り返って

青少年奉仕委員会
委員長 藤下 和也 (恵那 RC)

今年度も新型コロナウイルスの影響で予定していた委員会なども中止となってしまい本当に何も出来ない1年でした。しかしながら学校教育の現場では少しずつですが変化の兆しが見えています。本年は個人的ではありますが、子供達の社会への関わり（キャリア教育）の中でリアルでのセミナーを依頼され、1校（高校生）は実施、1校（中学生）はまん延防止の為に中止となりましたが、それでもウィズコロナに向けての取り組みは始まっています。もう少し時間がかかるかもしれませんがコロナウイルスの変異もあって人体にさほど影響が無い？ことを前提に、ウイルスや戦争など様々な社会変動があっても私たち大人が子供の成長の中での一番大事な「人とのコミュニケーションやふれあい」を大事にし、健全な人としての成長を願いながら活動をしなければならないと思っています。



1年を振り返って

ローターアクト委員会
委員長 青山 正生 (本巣 RC)

今年度も昨年度と同様に、新型コロナウイルス感染症の影響で通常の活動ができず、感染対策を取りながらの活動となりましたが、委員長として委員の皆様との協力を得て一年間務めることができました。皆様方には御支援と御指導を賜り誠に有難うございました。

現在、当地区にはローターアクトクラブが6クラブあり会員数は約60名が登録されており、歴史のあるクラブほど会員数が減少状態です。ローターアクトクラブは、会員が中心となり企画から運営までボランティア活動を通じ地域社会に様々な貢献をしながら自分自身が学び成長していく団体です。ロータリアンの皆様には、入会者のご紹介を宜しくお願い申し上げます。そして提唱クラブ以外のロータリアンの皆様もローターアクトクラブ活動に少しでも御参加頂き御理解と御協力の程、宜しくお願い申し上げます。最後になりましたが、1年間有難う御座いました。



1年をふりかえって

青少年交換委員会
委員長 平田 芳久 (四日市 RC)

2020、2021年度と交換プログラムが中止となる中、2021年度の当委員会の活動はコロナウイルス感染症の影響で、難しい判断を迫られる年度となりました。そのような状況下当地区では、2022年度のプログラム再開を信じ、派遣候補生を受け入れてプログラム再開の準備を進めて参りました。同じくプログラムの再開に向け取り組む世界の地区と連絡を取り合い、結果として2022年8月に3名の学生を海外に派遣し、海外から4名の学生を受け入れる予定です。

コロナ禍が取束するまでには時間がかかりそうですが、魅力あるロータリーの交換プログラムに世界中の学生が参加し、異なる文化、歴史に触れ多くの人たちと交流し、国際交流の大切さを体験できる本来の交換プログラムに戻る事を願い、2023年度も活動を続けて参りますので、引き続きご協力のほど宜しくお願い申し上げます。



インターアクト委員会 1年を振り返って

インターアクト委員会
委員長 布目 美智男 (下呂 RC)

日頃よりインターアクトクラブの活動にご理解と支援を頂きありがとうございます。

本年度もコロナの影響で韓国派遣事業をはじめ多くの事業や活動に制限がありましたが、本年度は2年ぶりにインターアクトクラブ年次大会をホスト校に加納高校、スポンサークラブに岐阜南ロータリークラブのご尽力で、長良川グランドホテルで開催することができました。Zoom参加の学校もありましたが、久しぶりにインターアクターの活躍を見ることができたとともに、コロナ禍の中でも活動する逞しさを感じました。

岐阜県下の地区協議会は開催することが出来たことも喜ばしいことでした。

韓国派遣は残念なことに次年度も中止になりましたが、韓国派遣事業の再開に向けて委員長の役を終えてからも一委員として残り、引き続きインターアクトクラブを支援してまいります。皆様のご協力に感謝し振り返りとさせていただきます。



コロナ禍のロータリー財団活動

ロータリー財団部門委員会
委員長 堀部 哲夫 (関 RC)

1年間財団活動にご協力有難うございました。コロナ禍にあっても地区補助金事業は22件（奨学生1名含む）実施されました。グローバル補助金事業は2件が採択され、1件が申請中です。

コロナ禍でイベント等の開催が自粛や中止を余儀なくされる中、メンバーのご努力と工夫により、代替えの事業を実施して頂き補助金を有効に使って頂きました。

例年、年間2回開催してきました財団研修セミナーも対面での開催が出来ませんでした。そこで、1回に集約してWeb会議形式で実施させて頂きました。初めての経験故、委員会では何度もリハーサルを行いました。充分にご理解頂けたか心配なところです。

次年度においては、すべての規制が緩和され十分なロータリー活動ができますことを祈念します。



1年を振り返って

資金推進小委員会
ロータリー平和フェロシップ小委員会
委員長 加瀬 久照 (津 RC)

資金推進小委員会はロータリー財団へのご理解と寄付の増進を推進し、浦田ガバナーの方針のとおり、主に年次基金寄付 EREY150ドル以上とポリオプラス基金寄付 30ドル以上、恒久基金寄付をクラブ全体で1千\$以上を目標に寄付の増進にご協力をお願いしてまいりました。地区ロータリーアン、各クラブのみならずには、大変お世話になりました。感謝申し上げます。

コロナ禍ではございましたが、会長対象に3月13日(土)(PETS) Zoomにて、クラブ財団委員長対象に4月18日(日)(地区研修協議会) Zoomにて、7月24日(土)(財団セミナー)は中止させて頂き、次年度会長等を対象に10月17日(土)(財団セミナー・補助金管理セミナー)を統合しZoomにて開催させて頂き、ロータリー財団へのご理解のために詳しく説明を行ってまいりました。財団卓話にも講師を派遣させて頂き委員会としての活動を精一杯させて頂きました。

「やさしいロータリー財団」を目指して邁進いたしました。皆様のご指導ご協力を頂き1年を終えることが出来ました。大変ありがとうございました。

ロータリー平和フェロシップ小委員会は国際ロータリーの最も新しい奨学金プログラムで、国際ロータリーと世界平和を構築できる人材育成を行うことを目的とした全額支給の奨学金プログラムです。世界平和の推進について留学したい優れた候補者があれば地区財団部門委員会への情報提供をお願い申し上げます。

本年度は大変お世話になりました。引き続き資金推進また、平和フェロシップ小委員会委員長を就任させて頂く事となりました来年度も本年度と変わらぬご指導ご協力をお願い申し上げます。

R財団への寄付は、未来への投資とお考え頂き、さらなるご支援をお願い申し上げます。お礼いたします。



コロナ禍での1年を振り返って

資金管理小委員会
委員長 澤田 哲郎 (多治見リバーサイド RC)

緊急事態宣言や蔓延防止などが出ていないゴールデンウィークを久しぶりに過ごすことができました。制限のない自由な時間を楽しめたことに改めて感謝しています。

昨年10月17日(土)にロータリー財団セミナーを岐阜グランドホテルにて開催する予定で準備を進めておりましたが、コロナ対策によりズームでの開催となってしまいました。セミナー参加者の皆様に資料の説明は無事に終わりましたが、ズームは顔が見えないので全く反応がわかりません。ただセミナーをやったとの空しい感覚だけが残りました。

今年に入り、コロナの蔓延防止(第6波)がやっと3月6日は解除になり、3月26日には会長エレクト(PETS)が都ホテルで対面方式により開催できることとなりました。

一堂に集まれることは物凄く活気が出ますね。4月16日(土)には地区研修・協議会が都ホテルと国際会議場でリアルで開催できました。ロータリー財団部門の分科会も久しぶりの対面での研修でしたので、委員長の皆様も熱の入った説明ができ、各クラブのロータリー委員長の皆様も十分理解ができたのではないかと考えております。

ロシアによるウクライナへの非道な戦争は全世界から非難され、毎日テレビでその惨状が映しだされています。非常に心が痛むのを覚えます。ここで我が2630地区は日本で一番早くウクライナへの人道支援を行い、しかも10万ドルの最高額の支援金を贈ることを決定しました。素晴らしい迅速な行動をとれたことは称賛に値すると思います。

最後になりますが、私は2630地区のロータリーカード推進委員を拝命しております。各クラブがダイナースのクラブカードを早急に導入されポリオ撲滅にご協力をお願いいたします。



1年を振り返って

米山記念奨学委員会
委員長 伊藤 晃宏 (鈴鹿シティ RC)

今年度、会員の皆様より米山記念奨学会へご寄付を頂き、19名の奨学生が修了し、新しく21名の米山奨学生を世話クラブに配属させて頂きました。2021-22年度地区事業としては、下記の通りコロナ対策を行い研修・交流会などを行いました。

- ・7月:奨学生卓話研修会
- ・10月~11月:各クラブ卓話訪問
- ・11月:奨学生・カウンセラー研修会・中間報告会
&次年度世話クラブ事前説明会
- ・1月:次期米山奨学生 面接選考会
- ・3月:米山奨学生修了式
- ・4月:カウンセラー・奨学生入学式・オリエンテーション
- ・6月:次年度個別学校説明会

委員会としましては学友会(修了した奨学生を中心とした会)の取組をサポートしていきたいと思っております。

また、今期浦田ガバナーのご指導のもと米山奨学事業が遂行できたことに感謝申し上げますと共に各クラブメンバーの皆様・委員会メンバーの皆様の温かいご支援に感謝と御礼を申し上げます。



1年振り返って

ポリオ・プラス小委員会
委員長 河地 勝彦 (多治見 RC)

昨今の、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い活動に様々な制限がかかり、例年同様のような現地活動への参加、視察は基より、皆様との会合自体が困難となっておりますが、だからといってポリオ根絶に向けての動きを止めるわけにはいきません。今、全世界がコロナウイルスに対処すべく活動がなされていますが、コロナ同様にポリオという病気にも全世界が一体となり立ち向かう必要があります。

ポリオにはワクチンが確立されワクチンさえ投与できれば、防ぐことが出来る病気なのです。長年にわたる私たちの戦いでポリオワクチンの普及は全世界の86%に及んでいます。その結果残り2ヶ国を残し野生株は根絶するところまで来ています。

私たちの活動がポリオ根絶の着実なステップに繋がります。直接的な活動が出来ない今、今まで以上に間接的な支援等が必要となりますので皆様のより一層のご協力を宜しくお願い致します。



1年をふり返って

補助金小委員会
委員長 本弘 路可 (津 RC)

本年度のロータリー財団地区補助金は、23のクラブより、22プロジェクトと1名の奨学生の申請を採択し、コロナ禍により一部プロジェクト内容に変更はありましたが無事完了する予定です。また、グローバル補助金事業も2件のプロジェクト申請を頂き、採択しております。

奨学金事業におきましては、コロナ禍により1年遅れの渡航となった方を含め、現在8名の方が留学中です。引き続き優れた人材がみえれば地区への情報提供をお願いします。

委員会活動は、今年度もZoomによるオンラインでの活動が中心となり、委員会全体としての十分な意見交換ができなかった事が反省点です。

次年度には、コロナ規制の大幅な緩和並びに円安基調により、ロータリー財団の補助金プロジェクトが従来以上の活動ができることを期待いたします。



3年間振り返って

地区財務委員会
委員長 平林 英一 (高山中央 RC)

今年度2021-22年度もコロナ禍の1年でした。財務委員会に2019-20年度に委員任命を受け早いもので3年たちました。2期目の会計長時のコロナ禍での会計事務対応は、戸惑いが多かったことを思い出します。

各委員会委員長が苦勞して作った予算編成が、各行事が予算通り運営できず変更、中止もあり、特別なコロナ関係の費用支出など苦勞をかけたかと思っております。

地区関係収入に関しては特別なことはなかったのですが、支出に関しては、相当の各委員会活動自粛で減少しました。その結果、地区資金の留保金の増加を生みました。

2021-22年度もコロナ禍終息ならず、現会計長はじめ各委員長には、ご苦勞もいかにばかりかと思っております。

そんな中にあっても、今後もロータリー会員からの会費が地区資金として有効に地区管理運営に遂行されていくものだと思います。

各委員会委員長には、費用支出管理などご苦勞をかけ、また、各委員にも交通費等自己負担に迷惑かけているかもしれませんが、今後とも国際ロータリー第2630地区全会員代表としての活躍をよろしくお願ひしたいと思います。

大垣西 RC 創立 60 周年記念式典

開催日 2022年4月23日(土)

場所 大垣フォーラムホテル



足かけ3年に渡るパンデミックは人類に大きなインパクトを与えました。ここ岐阜西濃地域においても、人的あるいは社会的損失には多大なものがありました。まだまだ不確実性に満ちている昨今ですが、ようやく出口が見えようとしています。そんななか4月23日に、コロナからの復興を誓う決意の場として浦田ガバナー、大垣市長始め多くのご来賓のもと創立60周年記念式典を開催いたしました。

本クラブは1962年に誕生し、インターアクトクラブ、ローターアクトクラブを併設する全国的にも数少ないパーフェクトクラブとしてその陣容を維持してきました。記念事業のコンセプトは『現場の声を聞く』とし、様々な自然災害に立ち向かうエッセンシャルワーカーの生の声を聞き、感謝し、その要望に沿ったものを寄贈することといたしました。これからも不易流行をモットーに、アフターコロナ世界においても常に進化し続けるクラブであり続けたいと考えています。



桑員グループ 公式訪問・IM

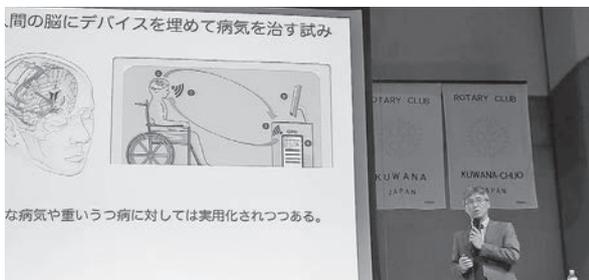
開催日 2022年4月25日(月)

場所 柿安シティホール



IMでの基調講演は桑名市出身で名古屋市立大学大学院薬学研究科服部光治教授の「脳の病気を克服するための研究と大学、大学院の役割」をお聴き頂きました。この模様は多くの方々にご覧頂くためDVDを制作中です。続いての合同例会では、浦田ガバナーよりいち早く取り組まれたウクライナ人道支援についての卓話を頂きました。

本来の開催日であった昨年10月18日はコロナの懸念からガバナーアッセンブリーのみ行うと共に4月延期を決定しました。その後の感染再拡大を経て4月は収束が見え始めましたが、依然数百人の感染が確認されていたので「直前でも中止」を覚悟しながら当日を迎えました。万一を考え地域の方の参加はお断りし時間短縮を図る等コロナによる多くの制約がありましたが、ガバナーはじめ地区幹事の皆様、我が桑員グループロータリアンのお陰で盛会に終えることができました。心よりお礼申し上げます。



ガバナーアッセンブリーの様子
2021年10月18日(月)開催

映像による地区大会

開催日 2022年4月29日(金) 場所 シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢

3月5日に三重県営サンアリーナにおいて開催予定であった2021-22年度地区大会の新型コロナウイルス感染拡大によるリアル開催中止に伴い、映像による地区大会を制作する為、4月29日に三重県伊勢市のシンフォニアテクノロジー響ホール伊勢に会場を変更して撮影を行いました。撮影には高橋伸治ガバナーエレクト、篠原一行ガバナーノミニ、次期開催地ホストクラブの岐阜ロータリークラブより石井亮一会長と岡本知彦大会実行委員長に会場にお越し頂きました。



また、この撮影に先立って来賓のRI会長代理 鈴木一作様(寒河江RC)のご自宅にお伺いし、会長アドレスの撮影を山形の地で行いました。



RI会長代理 鈴木一作様

浦田幸一ガバナーの点鐘で始まり、次年度へと地区大会を繋ぐ「次期への誓い」まで無事終了することが出来ました。リアルでの開催に最後まで望みをかけながらも残念ながら2年連続で開催出来なかった事は非常に残念ですが、高橋伸治ガバナー年度においては、是非ともリアル開催が実現する事に希望を持ちたいと思います。

なお、撮影しました映像による地区大会収録データは6月中に各クラブにお届けする予定です。



浦田ガバナー



高橋ガバナーエレクト



篠原ガバナーノミニ



近藤大会実行委員長



「次期への誓い」大会の鍵伝達



次期ホストクラブ岐阜RC 石井会長・岡本大会実行委員長



ホストクラブ伊勢中央RC 木村会長



ホストクラブ伊勢中央RC メンバー

国際ロータリー 第2630地区 会員数報告

2022年4月分

グループ	クラブ	例回数	会 員 数					
			前期末	うち女性	月末	うち女性	増	減
岐阜 A	岐阜 阜	3	75	2	76	3	8	7
	岐阜 阜西	4	45	0	43	0	2	4
	岐阜長良川	4	44	0	44	0	0	0
	岐阜 阜北	2	37	2	40	3	4	1
	岐阜 阜中	4	29	1	28	1	0	1
	グループ計(5)		230	5	231	7	14	13
岐阜 B	岐阜 阜南	3	87	9	84	9	3	6
	岐阜 阜東	4	52	2	46	2	0	6
	岐阜 阜東南	3	39	0	37	0	0	2
	岐阜加納	4	79	3	85	3	7	1
	岐阜エトス	3	21	2	21	2	0	0
	岐阜 阜城	3	18	0	19	0	1	0
	グループ計(6)		296	16	292	16	11	15
	岐阜 西濃	大 垣	3	89	3	90	3	2
	大 垣 西	4	70	0	77	0	8	1
	本 巢	3	32	0	29	0	1	4
	羽 島	4	28	2	35	2	7	0
	不 破	3	29	0	28	0	0	1
	大 垣 中	3	66	4	67	4	2	1
	大垣センチュリー	4	53	3	55	3	2	0
	岐阜 淡墨	3	16	1	16	1	0	0
	岐阜サンリバー	4	16	3	18	3	2	0
	グループ計(9)		399	16	415	16	24	8
岐阜 東濃	多 治 見	4	52	4	53	4	2	1
	中 津 川	3	70	2	71	2	3	2
	瑞 浪	4	57	1	60	1	3	0
	恵 那	4	43	2	48	3	5	0
	土 岐	3	36	1	36	1	0	0
	多 治 見 西	3	25	3	25	3	0	0
	中津川センター	3	54	1	55	1	1	0
	多治見リバーサイド	4	39	1	41	1	2	0
	グループ計(8)		376	15	389	16	16	3
	東海 北陸 道	美 濃	3	18	0	18	0	0
各 務 原		2	26	1	28	1	2	0
関		3	48	2	49	2	1	0
郡上八幡		3	39	0	39	0	0	0
関 中 央		4	30	0	30	0	0	0
郡上長良川		4	33	5	31	5	0	2
グループ計(6)			194	8	195	8	3	2
飛 濃		高 山	3	38	0	37	0	1
	下 呂	3	25	0	25	0	0	0
	高 山 西	3	34	2	34	2	0	0
	美濃加茂	4	34	5	34	5	1	1
	可 児	3	35	1	35	1	1	1
	高山中央	3	57	4	54	4	1	4
	グループ計(6)		223	12	219	12	4	8
岐阜県合計(40)		1,718	72	1,741	75	72	49	
地区合計(73)		3,031	174	3,063	176	138	106	

グループ	クラブ	例回数	会 員 数					
			前期末	うち女性	月末	うち女性	増	減
桑 員	桑 名	4	36	0	39	0	3	0
	桑 名 西	4	31	0	28	0	1	4
	桑 名 中 央	5	25	1	26	1	1	0
	桑 名 北	4	30	8	28	7	0	2
	グループ計(4)		122	9	121	8	5	6
四 日 市	四 日 市	4	86	2	89	2	11	8
	四日市北	3	21	5	20	4	0	1
	四日市西	3	70	4	72	4	3	1
	四日市南	3	33	4	31	4	0	2
	四日市東	4	35	0	33	0	1	3
	グループ計(5)		245	15	245	14	15	15
鈴 鹿 ・ 亀 山	鈴 鹿	4	69	10	72	10	6	3
	鈴 鹿 西	3	34	7	32	7	0	2
	鈴 鹿 ベイ	2	12	0	12	0	0	0
	亀 山	4	15	0	15	0	0	0
	鈴鹿シティ	4	61	3	64	3	3	0
グループ計(5)		191	20	195	20	9	5	
中 勢 ・ 伊 賀	津	4	60	0	63	0	6	3
	上 野	4	34	2	33	2	3	4
	名 張	4	34	1	35	1	3	2
	津 南	4	40	2	43	2	3	0
	津 北	4	49	4	53	4	4	0
	上 野 東	3	34	0	33	0	3	4
	久 居	3	26	1	26	1	0	0
	名張中央	4	19	2	19	2	0	0
グループ計(8)		296	12	305	12	22	13	
松 阪 ・ 東 紀 州	松 阪	4	74	0	77	0	6	3
	松 阪 東	4	66	12	66	12	1	1
	熊 野	0	32	5	32	5	0	0
	尾 鷲	4	11	2	11	2	0	0
	松阪山桜	4	38	3	38	3	0	0
	グループ計(5)		221	22	224	22	7	4
伊 勢 ・ 鳥 羽 ・ 志 摩	伊 勢	3	55	0	51	0	0	4
	鳥 羽	4	30	3	28	3	0	2
	伊 勢 南	3	45	4	45	4	2	2
	志 摩	4	46	13	44	14	3	5
	伊 勢 中 央	4	47	0	48	0	2	1
	伊 勢 度 会	4	15	4	16	4	1	0
	グループ計(6)		238	24	232	25	8	14
三重県合計(33)		1,313	102	1,322	101	66	57	

2021年4月(前年度)会員数報告

	期 首	うち女性	月 末	うち女性	増	減
岐阜県合計(41)	1,737	76	1,759	74	106	84
三重県合計(33)	1,352	98	1,355	105	62	59
地区合計(74)	3,089	174	3,114	179	168	143

2022年4月分

受章



小川 敏
岐阜県
各界功労者表彰



加藤伸明
瑞宝双光章



西村 進
瑞宝単光章
消防功労

入会会員



永井秀樹
2022.4.20 入会
建築工事



伊藤 聡
2022.4.12 入会
弁護士



高橋正泰
2022.4.12 入会
穀物栽培



原 秀輔
2022.4.12 入会
広告取扱



大西貴紀
2022.4.19 入会
保険業



白浜広海
2022.4.21 入会
総合建設業



石田千佳夫
2022.4.6 入会
信用金庫



速水敏浩
2022.4.20 入会
電気事業



矢野正剛
旭日双光章



小林嗣雄
旭日双光章



佐藤 薫
藍綬褒章



朝倉達也
2022.4.7 入会
塗装業



臼井良貴
2022.4.7 入会
織物業



神崎和也
2022.4.7 入会
信用金庫



杉田直紀
2022.4.6 入会
成型金型製作



西井真史
2022.4.6 入会
IT 機器販売修理



森井数馬
2022.4.6 入会
電気工業業



藤村元保
2022.4.26 入会
証券業



大黒一磨
2022.4.8 入会
行政書士

逝去会員

謹んでご冥福をお祈り申し上げます



横山鐵三

1977. 1. 1 入会
2022. 4. 25 逝去
1988-89年度 幹事
2005-06年度 会長
米山功労者
マルチプル・ポール・ハリス・フェロー



川島明雄

1982. 6. 30 入会
2022. 4. 15 逝去
1989-90年度 会長
ポール・ハリス・フェロー
米山功労者



松本昌純

2017. 5. 18 入会
2022. 4. 21 逝去

5月号 お詫びと訂正

下記の誤りがございました
お詫びして訂正いたします。

P11 会員動静報告(逝去会員)

【誤】 河崎芳浩

【正】 川崎芳浩

(敬称略)

《表紙》



写真撮影

中北 喜得 会員

(伊勢中央 RC / 2020-21 年度 会員増強委員長)

- 大豊和紙工業株式会社 代表取締役

この連載を青い水面で始めました。締めくくりは御岳の噴火が作った緑の水面です。

生きて行く時間も、占有できる空間も、自分で消費できる食料も、読み通せる書物も、袖を通せる衣服も、しっかり語りあえる友人も、よって立つ信念も、何もかも有限だ。貨幣は抽象概念だから上限はない。実体のない幻想に支配されているのが資本主義だ。

人口は減少する。資源は枯渇する。限りがある問題を、限りのない経済観念では原理的に解決できない。長い人類の歴史の中で、ほんのひととき花開いて瞬く間に費え去った「成長する経済」に、いつまでもしがみつくと愚を悟れ。人類が分かち合う幸福は、無限の幻想にではなく、今お互いの思いやりの中にある。

資本主義を「人間主義」に転換するのに革命は要らない。ロータリアンは信念を持ち有限の力で職業奉仕をすればよい。それでこそ、ロータリー。

機械抄きの芭蕉の繊維は、強い圧搾により美しい光沢面を形成します。写真用光沢紙とはひときわ違う味わいが、水面を幻想的に描き出しました。

表紙デザイン案を毎回複数提示してくださった海見泰弘会員、ありがとうございました。一見あり得ない配色と思うものが、眺めているとじわじわとその意味が見えてくる。全部正解を探り当てられなかったかもしれませんが、配色の妙を堪能いたしました。

Print : 伊勢和紙 Photo 浄ら芭蕉(滑面) (大豊和紙工業株式会社)

伊勢和紙は三重県指定伝統工芸品に認定されています。

その製造を行う大豊和紙工業株式会社は1世紀以上に亘り神宮御用紙を奉製しています。

花屋が生業 最終は少し花色をつけて都都逸で

咲くが花かよ 咲かぬが花か 咲かぬつぼみの うちが花

ガバナーと呼ばれるうちが花、Pが付いたら過去の人
ガバナーが終わって、やっとガバナーだ
とか言われるガバナーも今月で満了

咲くか咲かぬかコロナに翻弄され
つぼみで終わるガバナーの思い

これも花か！



紫陽花 (別名：七変化)

都都逸 (どどいつ)

俗曲のひとつ、寛政 (1789 ~ 1801) 末期から文化 (1804 ~ 1818) 初期のころ、潮来節 (いたこぶし) を母体に成立。天保 (1830 ~ 1844) 末期に江戸の都々逸坊扇歌が寄席で歌って流行した。七・七・七・五の 26 文字で、情愛の機微を表現したものが多く。

七色変わって元の色

原種は日本 ガクアジサイを改良した園芸品種が多く愛好されている。

花言葉は「移り気」「浮気」「無常」

ピンクの紫陽花は「元気な女性」

ブルーは「辛抱強い愛情」 ホワイトは「寛容」

ツーリング
ライダー
募集

地区ライダー同好会を作ります。

参加希望の方は、【氏名】【クラブ名】【連絡先】【愛車】を
FAX (0596-65-7282) にてお知らせ下さい。

ガバナー浦田幸一 (カワサキ・バルカン 1500)



1 年を振り返って

浦田ガバナーがご指名頂き本年はコロナ禍も 3 年目になるので、全て通常開催ができるだろうと期待を持って準備を始めました。が、実際はコロナ感染の波と闘いながらのガバナー年度になりました。地区チーム研修セミナー、PETS、地区研修・協議会全てリアル開催できずオンラインとDVDを活用しての開催となりました。DVDの撮影では各委員長はじめ委員会メンバーに大変お世話になりました。またオンライン配信では辻PGには伊勢までお越し頂き、現場でアドバイスを沢山頂きました。誠にありがとうございました。

本年度が始まり結果的に73クラブ中46クラブにガバナー公式訪問で伺えました。IMは12グループ中6グループで開催されました。度重なる日程変更、時には会場変更等ガバナー補佐の皆様と会長幹事のご苦勞の賜物であります。委員会活動に関しましては月信でご案内しましたが委員長はじめ委員会の調整でコロナの波をくぐりつつ様々な事業を展開して頂きました。また地区大会はリアル開催にこだわっておりましたが、USB配信となりました。この撮影でも高橋エレクト、篠原ノミニーはじめたくさんの方にお世話になりました。本ガバナー月信の発行も今月号で最後になります。これも関係の皆様のご協力でスムーズに発行できました。

初めてのガバナー事務所運営を地区幹事13名が中心に伊勢中央RCで試行錯誤しながら行ってまいりました。いろいろと至らぬ点もあったとは存じますが、皆様のおかげで何とか終えることができそうです。私たちにとって大変貴重な経験をさせて頂きました。重ねて御礼申し上げます。

誠にありがとうございました。

2021-22年度

国際ロータリー第2630地区 地区代表幹事 玉木 義裕

2021-22 年度 地区事務所・ガバナー事務所・地区大会事務所 案内

地区事務所

〒500-8212 岐阜県岐阜市日野南3丁目5-16
TEL:058-248-9724 FAX:058-248-9725 E-mail:branch@rid2630.org

執務時間 9:30~17:30
(土・日・祝日 休務)

ガバナー事務所 地区大会事務所

〒516-0037 三重県伊勢市岩渕1丁目6-21 三和ビル3F
TEL:0596-65-7281 (ガバナー事務所) TEL:0596-65-7285 (地区大会事務所)
FAX:0596-65-7282 (共通) E-mail:2122@rid2630.jp (ガバナー事務所)
E-mail:2122taikai@rid2630.jp (地区大会事務所)

執務時間 10:00~16:00
(土・日・祝日 休務)